

# CA ARCserve® Central Reporting

ユーザガイド

r16



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複写、譲渡、開示、変更、複本することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、  
(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または (ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負いません。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2012 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

## CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルが参照している CA Technologies の製品は以下のとおりです。

- CA ARCserve® Backup
- CA ARCserve® D2D
- CA ARCserve® Replication/High Availability
- CA ARCserve® Central Host-Based VM Backup
- CA ARCserve® Central Protection Manager
- CA ARCserve® Central Reporting
- CA ARCserve® Central Virtual Standby

## CA への連絡先

テクニカルサポートの詳細については、弊社テクニカルサポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/> (<http://www.ca.com/jp/support/>)) をご覧ください。

## CA ARCserve Central Applications のサポート リンク

CA サポート オンラインでは、技術的な問題を解決するのに役立つ豊富なリソースのセットが提供され、重要な製品情報にも容易にアクセスできます。CA サポートを使用して、信頼できるアドバイスをいつでも簡単に利用できます。以下のリンクを使用すると、さまざまな CA サポートサイトにアクセスできます。

- **サポートの紹介** -- 以下のリンクでは、契約条件、請求、サービスレベル目標 (SLO)、サービス時間など、メンテナンスプログラムおよびサポート サービスに関する情報が提供されます。

<http://www.ca.com/jp/support/> (<http://www.ca.com/jp/support/>)

- **サポートへの登録** -- 以下は、CA サポート オンライン登録フォームへのリンクです。製品サポートを有効にするために使用します。

<http://www.casupport.jp/support/supportonline/>  
(<http://www.casupport.jp/support/supportonline/>)

- **テクニカルサポートへのアクセス** -- 以下は、CA ARCserve Central Applications のワンストップ サポート ページへのリンクです。

<http://www.casupport.jp/resources/storagesupp>  
(<http://www.casupport.jp/resources/storagesupp/>)

## マニュアルの変更点

このドキュメントには、製品およびドキュメント自体の利便性と理解の向上に役立つことを目的として、ユーザのフィードバック、拡張機能、修正、その他小規模な変更が含まれています。

本マニュアルでは、前回のリリース以降に、以下の点を更新しています。

### Update 6

- 「[アラートレポートビュー \(P. 40\)](#)」が更新されました。2つの新しいイベントタイプ、[ジョブキュー内の待機中ジョブのスキップ/マージ]と[ディスカバリ]を追加してトピックを更新しました。

### Update 4

- 「サイレントインストール用製品コード」のサブトピックを削除し、「[CA ARCserve Central Reporting のサイレントインストール \(P. 19\)](#)」に含めました。
- 「[電子メールによるレポートのスケジュール \(P. 103\)](#)」のトピックから画像を削除しました。タブの説明を追加しました。
- 「[サーバの通信プロトコルの変更 \(P. 110\)](#)」が追加されました。このトピックでは、CA ARCserve Central Applications コンポーネントによって使用される通信プロトコルを、バッチファイルを使用して HTTP から HTTPS に変更する方法、および HTTPS から HTTP に変更する方法について説明します。



# 目次

---

<b>第 1 章: CA ARCserve Central Reporting の概要</b>	<b>9</b>
概要.....	9
レポート機能.....	10
CA ARCserve Central Reporting の仕組み.....	11
CA ARCserve Central Applications マニュアル選択メニュー.....	12
<b>第 2 章: CA ARCserve Central Reporting のインストール</b>	<b>13</b>
インストール タスクの前提条件.....	13
インストールに関する考慮事項.....	14
CA ARCserve Central Reporting のインストール.....	14
CA ARCserve Central Reporting のアンインストール.....	18
CA ARCserve Central Reporting のサイレント インストール.....	19
CA ARCserve Central Reporting のサイレント アンインストール.....	22
<b>第 3 章: CA ARCserve Central Reporting の紹介</b>	<b>25</b>
CA ARCserve Central Protection Manager サーバの設定.....	25
電子メール設定の環境設定.....	27
更新スケジュールの設定.....	29
プロキシ設定の環境設定.....	30
ソーシャル ネットワーキングの環境設定.....	32
管理者アカウントの変更.....	33
<b>第 4 章: CA ARCserve Central Reporting の使い方</b>	<b>35</b>
Dashboard 画面について.....	36
CA ARCserve Central Reporting の種類.....	39
アラート レポート.....	39
データ トレンド レポート.....	44
リソース使用率レポート.....	56
バックアップ レポート.....	70
メディアのデータ分布レポート.....	95
CA ARCserve Central Reporting ログの表示.....	100
ナビゲーション バーへのリンクの追加.....	102
レポート タスク.....	103

電子メールによるレポートのスケジュール .....	103
電子メールによる個別レポートの送信 .....	105
複数のレポートを一度に表示 .....	106
CSV ファイルとしてのレポートの保存 .....	109
サーバの通信プロトコルの変更 .....	110

## 第 5 章: CA ARCserve Central Reporting のトラブルシューティング 113

レポートが Internet Explorer で表示されない .....	114
ページのロード問題のトラブルシューティング方法 .....	117
CA ARCserve Central Applications にアクセスすると、文字化けがブラウザ ウィンドウ内に表示される .....	118
アプリケーションへのログイン時に証明書エラーが表示される .....	119
ノード名を変更した後にノードがレポートに表示されない .....	121
Microsoft Excel に CSV 形式でデータをエクスポートすると不明瞭なコンテンツが表示される .....	121
CA ARCserve Central Protection Manager に正常に接続した後に環境設定エラー メッセージが表示される .....	122
Internet Explorer 8、9、Chrome で追加した新しいタブのリンクが正常に起動しない .....	122
Internet Explorer 8 および 9 で、新しいタブの追加リンク、RSS フィード、およびソーシャル ネットワーキング フィードバックが正常に起動しない .....	126

## 第 6 章: ベスト プラクティスの適用 127

インストール処理のオペレーティング システムに対する影響 .....	127
無効なファイル バージョン情報が含まれるバイナリ ファイル .....	129
埋め込みマニフェストを含まないバイナリ ファイル .....	130
マニフェストで管理者に必要な権限を持つバイナリ ファイル .....	131

## 索引 133

# 第 1 章: CA ARCserve Central Reporting の概要

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[概要 \(P. 9\)](#)

[レポート機能 \(P. 10\)](#)

[CA ARCserve Central Reporting の仕組み \(P. 11\)](#)

[CA ARCserve Central Applications マニュアル選択メニュー \(P. 12\)](#)

## 概要

CA ARCserve Central Applications は、コア データ保護および管理テクノロジーと、併せて動作するターゲット アプリケーションのエコシステムとを組み合わせて、グローバル環境全体におけるデータの社内外での保護、コピー、移動、および変換を容易にします。

CA ARCserve Central Applications は使い易く、管理およびインストールも簡単に行うことができます。組織は、組織の情報に対する制御を自動化し、データのアクセス、可用性、セキュリティに関して、全体的なビジネス価値に基づいて適切な意思決定を下すことができます。

CA ARCserve Central Applications によって提供されるアプリケーションの中で、レポート機能は CA ARCserve Central Reporting によって管理されます。レポート アプリケーションでは、社内外で実行されている管理対象デバイス、設定、ポリシーのレポートを一元的に表示および管理することができます。

CA ARCserve Central Reporting は、さらに詳細な情報を表示するレポートにドリルダウンするための機能を提供しています。

## レポート機能

CA ARCserve Central Reporting には、以下のレポート機能が含まれています。

- 登録されたすべてのノードに関して、バックアップ インフラストラクチャと SRM (Storage Resource Management) 環境の中央スナップショットの概要を提供します。
- ハードウェアとソフトウェアを含むノード詳細と、データ サイズのトレンドを提供します。
- SRM PKI (パフォーマンス キー インジケータ) を提供し、バックアップ環境で実行されているエージェントのパフォーマンスをモニタできます。

SRM PKI は、以下のパフォーマンス指標を測定します。

- CPU 使用率
- メモリ使用率
- ディスク スループット
- ネットワーク入出力

注: SRM の有効化または無効化の詳細については、「CA ARCserve Central Protection Manager ユーザ ガイド」を参照してください。

- さまざまなレポート アラートを提供します。
- ノードバックアップ ステータスを提供します。
- ノードアーカイブおよびファイルコピー ステータスを提供します
- 前回成功したジョブの日時を提供します。
- 暗号化および圧縮ステータスを含む復旧ポイントを提供します。
- バックアップ サイズトレンドを提供します。

- 指定したパラメータに基づいてレポートに表示するデータを制限するためのレポートフィルタ機能を提供します。
- レポート用に収集したデータを各種の形式（印刷、スプレッドシートで使用するために CSV 形式で保存、または電子メール）でエクスポートする機能を提供します。
- 指定した受信者に電子メールを使用してレポートを送信するためのカスタマイズされたスケジュールを作成する機能を提供します。
- 仮想マシンの最新のバックアップステータスについて概要を提供します。
- ユーザの現在のタイムゾーンを表示する機能を提供します。  
(タイムゾーンは、アプリケーションの右上で参照できます。)

## CA ARCserve Central Reporting の仕組み

CA ARCserve Central Reporting によって提供されるレポートのリストを使用して、データを生成したり、レポートをグラフ形式または表形式で表示できます。グラフビューでは、円グラフ、棒グラフ、線グラフが表示できます。さらに、より詳細な情報を表示するレポートヘッドリルダウンする高度な機能を持つレポートもあります。

CA ARCserve Central Reporting を起動するには、Windows の [スタート] メニューから [すべてのプログラム] - [CA] - [ARCserve Central Applications] - [Reporting] を選択します。

CA ARCserve Central Reporting には、以下の URL を使用してリモートコンピュータからアクセスすることもできます。

<http://<CA ARCserve Central Application サーバ名>:<ポート番号>/reporting/>

CA ARCserve Central Reporting ホーム画面が表示され、以下のナビゲーション機能を使用して、さまざまなレポート機能にアクセスできます。

- **Dashboard** -- すべての CA ARCserve Central Applications インフラストラクチャとストレージリソース管理 (SRM) の環境について概要を提供します。
- **環境設定** -- Protection Manage の環境設定、電子メール環境設定、更新環境設定、環境設定の設定などを指定します。

- **ログの表示** -- 個別のノードについてアクティビティ ログを表示します。そのノードに関連付けられたすべてのログ メッセージが表示されます。リストをフィルタすることもできます。そのためには、表示されるメッセージの重大度（すべて、情報、エラー、警告、エラーと警告）、モジュールの種類（すべて、共通、電子メール、電子メールスケジューラ、更新）、またはノード名を指定します。

## CA ARCserve Central Applications マニュアル選択メニュー

CA ARCserve Central Applications ヘルプ システムに含まれているトピックは、PDF 形式の「ユーザ ガイド」でも提供されています。このガイドおよびヘルプ システムの最新の PDF バージョンは CA ARCserve Central Applications マニュアル選択メニュー (<https://support.ca.com/cadocs/0/CA%20ARCserve%20Central%20Applications%20Enterprise%20Support%2016%200-ENU/Bookshelf.html>)からアクセスできます。

CA ARCserve Central Applications リリース ノートには、この製品をインストールする前に理解しておく必要があるさまざまな情報が含まれています。たとえば、システム要件、オペレーティング システムのサポート、アプリケーション回復サポートなどがあります。さらに、CA ARCserve Central Applications を使用する前に確認する必要がある既知の問題のリストが含まれています。リリース ノートの最新バージョンは CA ARCserve Central Applications マニュアル選択メニュー (<https://support.ca.com/cadocs/0/CA%20ARCserve%20Central%20Applications%20Enterprise%20Support%2016%200-ENU/Bookshelf.html>)から入手できます。

# 第 2 章: CA ARCserve Central Reporting のインストール

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[インストール タスクの前提条件 \(P. 13\)](#)

[インストールに関する考慮事項 \(P. 14\)](#)

[CA ARCserve Central Reporting のインストール \(P. 14\)](#)

[CA ARCserve Central Reporting のアンインストール \(P. 18\)](#)

[CA ARCserve Central Reporting のサイレントインストール \(P. 19\)](#)

[CA ARCserve Central Reporting のサイレント アンインストール \(P. 22\)](#)

## インストール タスクの前提条件

アプリケーションをインストールする前に、以下の必須のタスクを完了します。

- 「リリース ノート」を確認します。「リリース ノート」には、システム要件の説明、サポートされるオペレーティング システム、およびアプリケーションのこのリリースで存在する既存の問題のリストが含まれます。
- お使いのシステムがアプリケーションをインストールするためのハードウェア要件とソフトウェア要件を満たしていることを確認します。
- 使用している Windows アカウントが、CA ARCserve Central Reporting をインストールするコンピュータに対して、管理者権限またはソフトウェアをインストールするのに必要な管理者相当権限を持っていることを確認します。
- アプリケーションをインストールするコンピュータのユーザ名およびパスワードを所有していることを確認します。
- CA ARCserve Central Reporting アプリケーションは、CA ARCserve Central Protection Manager に設定されたデータベースを土台としています。CA ARCserve Central Reporting が正しく機能するためには、CA ARCserve Central Protection Manager の詳細が正しく設定されていることを確認する必要があります。

## インストールに関する考慮事項

CA ARCserve Central Reporting をインストールする前に、以下の考慮事項を確認します。

- CA ARCserve Central Applications インストールパッケージは、CA ARCserve Central Applications Server という名前のモジュールをインストールします。CA ARCserve Central Applications Server は、すべての CA ARCserve Central Applications に共通のモジュールです。このモジュールには、CA ARCserve Central Applications が互いに通信するために使用される Web サービス、バイナリ、および環境設定が含まれています。

CA ARCserve Central Applications をインストールすると、インストールパッケージは製品コンポーネントをインストールする前に CA ARCserve Central Applications Server モジュールをインストールします。CA ARCserve Central Applications にパッチを適用する必要がある場合、パッチは製品コンポーネントを更新する前にモジュールを更新します。

## CA ARCserve Central Reporting のインストール

インストール ウィザードを使用すると、示される手順に従って CA ARCserve Central Applications をインストールすることができます。

注: アプリケーションをインストールする前に、「リリース ノート」を参照し、「[インストールタスクの前提条件 \(P. 13\)](#)」に説明されているタスクがすべて完了していることを確認してください。

### CA ARCserve Central Reporting をインストールする方法

1. アプリケーションをインストールするコンピュータに CA ARCserve Central Applications インストールパッケージをダウンロードし、次に、セットアップファイルをダブルクリックします。

インストールパッケージにより、そのコンテンツがコンピュータへ展開されます。次に、[前提条件コンポーネント] ダイアログボックスが表示されます。

2. [前提条件コンポーネント] ダイアログ ボックスで [インストール] をクリックします。

**注:** [前提条件コンポーネント] ダイアログ ボックスは、必要な前提条件コンポーネントがコンピュータにインストールされていることを検出できなかった場合にのみ表示されます。

セットアップで前提条件コンポーネントをインストールした後、[使用許諾契約] ダイアログ ボックスが表示されます。

3. [使用許諾契約] ダイアログ ボックスで必要なオプションを入力して、[次へ] をクリックします。

[環境設定] ダイアログ ボックスが表示されます。

4. [環境設定] ダイアログ ボックスで、以下を入力します。

- **コンポーネント** -- インストールするアプリケーションを指定します。

**注:** スイートインストールパッケージを使用してこのアプリケーションをインストールしている場合、複数のアプリケーションをインストールできます。

- **場所** -- デフォルトのインストール場所を使用するか、あるいは [参照] をクリックして別のインストール場所を指定します。デフォルトの場所は以下のとおりです。

C:\Program Files\CA\ARCserve Central Applications

- **ディスク情報** -- ハードドライブに、アプリケーションをインストールするために十分なディスク空き容量があることを確認します。
- **Windows 管理者の名前** -- 以下の構文を使用して、Windows 管理者アカウントのユーザ名を指定します。

<ドメイン名>\<ユーザ名>

- **パスワード** -- ユーザ アカウントのパスワードを指定します。
- **ポート番号の選択** -- Web ベースのユーザ インターフェースとの通信に使用するポート番号を指定します。 ベストプラクティスとして、デフォルトポート番号を使用することをお勧めします。 デフォルトポート番号は以下のとおりです。

8015

**注:** 別のポート番号を指定する場合、利用可能なポート番号は 1024 ~ 65535 です。 別のポート番号を指定する前に、指定するポート番号が未使用で利用可能であることを確認してください。 セットアップでは、利用可能でないポートを使用して、アプリケーションをインストールすることはできません。

- **Web 通信に https を使用する** -- データ転送に HTTPS 通信を使用するように指定します。 このオプションは、デフォルトでは選択されていません。

**注:** 安全な HTTPS 通信は、HTTP 通信より高いレベルのセキュリティを提供します。 ネットワーク内で機密情報を転送する場合は、HTTPS 通信プロトコルが推奨されます。

- **Windows ファイアウォールの例外として CA ARCserve Central Applications サービス/プログラムを登録することを許可する** -- このオプションの横のチェック ボックスが選択されていることを確認します。 CA ARCserve Central Applications の設定や管理をリモートコンピュータから実行する場合、ファイアウォールの例外に登録する必要があります。

**注:** ローカルユーザの場合、ファイアウォールの例外に登録する必要はありません。

[次へ] をクリックします。

[アプリケーション設定] ダイアログ ボックスが表示されます。

5. [アプリケーション設定] ダイアログ ボックスで、以下のフィールドに入力します。

注: [アプリケーション設定] ダイアログ ボックスで指定された値を使用して、レポートを作成するために、CA ARCserve Central Protection Manager がインストールされているコンピュータから CA ARCserve Central Reporting が情報を取得することができます。

- **CA ARCserve Central Protection Manager サーバ** -- Protection Manager アプリケーションがインストールされているコンピュータのホスト名を指定します。
- **ユーザ名** -- Protection Manager アプリケーションがインストールされているコンピュータにログインするために必要なユーザ名を指定します。
- **パスワード** -- ユーザのパスワードを指定します。
- **ポート** -- CA ARCserve Central Protection Manager ユーザ インタフェースと通信するために使用する必要があるポート番号を指定します。
- **接続の種類** -- CA ARCserve Central Protection Manager に設定された接続に基づいて接続の種類を選択します。
  - **HTTP** -- セキュリティで保護されていない接続を指定します。
  - **HTTPS** -- セキュリティで保護された接続を指定します。
- **後で設定** -- インストールプロセスの完了後にアプリケーション設定を指定します。

[次へ] をクリックします。

インストール処理が完了すると、[インストール レポート] ダイアログ ボックスが表示されます。

6. [インストール レポート] ダイアログ ボックスにはインストール サマリが表示されます。アプリケーションの更新をすぐに確認する場合は、[更新の確認] をクリックし、次に [完了] をクリックします。

アプリケーションがインストールされます。

## CA ARCserve Central Reporting のアンインストール

Windows コントロールパネルの [プログラムと機能] を使用してアプリケーションをアンインストールできます。

### CA ARCserve Central Reporting をアンインストールする方法

1. Windows の [スタート] メニューから、[スタート] をクリックして [コントロールパネル] をクリックします。

Windows の [コントロールパネル] が開きます。

2. Windows の [コントロールパネル] から、[表示] の横のドロップダウンリストをクリックし、次に [大きいアイコン] または [小さいアイコン] をクリックします。

Windows の [コントロールパネル] アプリケーションのアイコンがグリッドレイアウトで表示されます。

3. [プログラムと機能] をクリックします。

[プログラムのアンインストールまたは変更] ウィンドウが表示されます。

4. アンインストールするアプリケーションを検索してクリックします。

アプリケーションを右クリックし、コンテキストメニューから [アンインストール] を選択します。

画面の指示に従い、アプリケーションをアンインストールします。

アプリケーションがアンインストールされます。

## CA ARCserve Central Reporting のサイレント インストール

CA ARCserve Central Applications では、CA ARCserve Central Reporting のサイレント インストールを実行できます。サイレント インストールでは、ユーザによる操作が不要になります。以下の手順は、Windows コマンドラインを使用してアプリケーションをインストールする方法を説明しています。

### CA ARCserve Central Reporting をサイレント インストールする方法

1. サイレント インストール処理を開始するコンピュータ上で Windows コマンドラインを開きます。
2. CA ARCserve Central Applications の自己解凍インストールパッケージを対象のコンピュータにダウンロードします。

以下のコマンドライン構文を使用して、サイレント インストール処理を開始します。

```
"CA ARCserve Central Applications Setup.exe" /s /v"/q -Path:<INSTALLDIR>  
-Port:<PORT> -U:<UserName> -P:<Password> -Products:<ProductList>"
```

#### 使用法:

##### s

実行ファイルパッケージをサイレント モードで実行します。

##### v

追加のコマンドライン オプションを指定します。

##### q

アプリケーションをサイレント モードでインストールします。

#### **-Path:<INSTALLDIR>**

(オプション) インストールパスを指定します。

#### 例:

```
-Path:"C:\Program Files\CA\ARCserve Central Applications"
```

注: INSTALLDIR の値にスペースが含まれる場合は、パスを円記号と引用符で囲みます。また、パスの末尾を円記号にすることはできません。

**-Port:<PORT>**

(オプション) 通信用のポート番号を指定します。

例:

-Port:8015

**-U:<UserName>**

アプリケーションのインストールおよび起動に使用するユーザ名を指定します。

注: このユーザは、管理者アカウントか、または管理者権限のあるアカウントである必要があります。

**-P:<Password>**

ユーザのパスワードを指定します。

**-Products:<ProductList>**

(オプション) CA ARCserve Central Applications のサイレントインストールを指定します。この引数に値を指定しない場合、サイレントインストール処理は CA ARCserve Central Applications のすべてのコンポーネントをインストールします。

**CA ARCserve Central Host-Based VM Backup**

VSPHEREX64

**CA ARCserve Central Protection Manager**

CMX64

**CA ARCserve Central Reporting**

REPORTINGX64

**CA ARCserve Central Virtual Standby**

VCMX64

**CA ARCserve Central Applications **すべて****

ALL

注: 以下の例は、それぞれ 1 つ、2 つ、3 つ、またはすべての CA ARCserve Central Applications をサイレント インストールするために必要な構文です。

-Products:CMX64

-Products:CMX64,VCMX64

-Products:CMX64,VCMX64,REPORTINGX64

-Products:ALL

アプリケーションがサイレント インストールされます。

## CA ARCserve Central Reporting のサイレントアンインストール

CA ARCserve Central Applications では、CA ARCserve Central Reporting のサイレントアンインストールを実行できます。サイレントアンインストールでは、ユーザによる操作が不要になります。以下の手順は、Windows コマンドラインを使用してアプリケーションをアンインストールする方法を説明しています。

### CA ARCserve Central Reporting をサイレントアンインストールする方法

1. アプリケーションをアンインストールするコンピュータにログインします。

**注:** 管理者アカウント、または管理者権限のあるアカウントを使用してログインする必要があります。

2. Windows コマンドラインを開き、以下のコマンドを実行してサイレントアンインストール処理を開始します。

```
<INSTALLDIR>%Setup%uninstall.exe /q /p <ProductCode>
```

または

```
<INSTALLDIR>%Setup%uninstall.exe /q /ALL
```

**例:** 以下の構文では、CA ARCserve Central Reporting のサイレントアンインストールを実行できます。

```
"%ProgramFiles%\CA\ARCserve Central Applications\Setup\uninstall.exe" /q /p {CAED8DA9-D9A8-4F63-8689-B34DEEEEC542}
```

#### 使用法:

##### <INSTALLDIR>

アプリケーションがインストールされているディレクトリを指定します。

**注:** コンピュータのオペレーティングシステムのアーキテクチャに対応する構文を実行してください。

##### <ProductCode>

サイレントアンインストールするアプリケーションを指定します。

**注:** サイレントアンインストールでは、1つ以上の CA ARCserve Central Applications をアンインストールできます。CA ARCserve Central Applications のサイレントアンインストールを行うには、以下の製品コードを使用します。

#### CA ARCserve Central Host-Based VM Backup

{CAED49D3-0D3C-4C59-9D99-33AFAF0C7126}

**CA ARCserve Central Protection Manager**

{CAED05FE-D895-4FD5-B964-001928BD2D62}

**CA ARCserve Central Reporting**

{CAED8DA9-D9A8-4F63-8689-B34DEEEEC542}

**CA ARCserve Central Virtual Standby**

{CAED4835-964B-484B-A395-E2DF12E6F73D}

アプリケーションがサイレント アンインストールされます。



# 第 3 章: CA ARCserve Central Reporting の紹介

---

以下のセクションでは、CA ARCserve Central Reporting の設定方法について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[CA ARCserve Central Protection Manager サーバの設定](#) (P. 25)

[電子メール設定の環境設定](#) (P. 27)

[更新スケジュールの設定](#) (P. 29)

[ソーシャル ネットワーキングの環境設定](#) (P. 32)

[管理者アカウントの変更](#) (P. 33)

## CA ARCserve Central Protection Manager サーバの設定

CA ARCserve Central Protection Manager 環境設定モジュールでは、CA ARCserve Central Protection Manager マシンおよびポートに接続し、レポート用のデータベース情報を取得することができます。

**次の手順に従ってください:**

1. CA ARCserve Central Reporting サーバにログインし、ナビゲーションバー上の [環境設定] をクリックして、[環境設定] 画面を開きます。
2. [環境設定] パネルから、[CA ARCserve Central Protection Manager 環境設定] をクリックします。
3. 以下のフィールドに入力します。
  - **CA ARCserve Central Protection Manager サーバ**  
以下のフィールドでは、CA ARCserve Central Protection Manager サーバに設定されている値がデフォルトになります。

- **マシン名** -- CA ARCserve Central Protection Manager がインストールされているコンピュータのホスト名。
- **ユーザ名** -- CA ARCserve Central Protection Manager アプリケーションがインストールされているコンピュータにログインするために必要なユーザ名。
- **パスワード** -- ユーザのパスワード。
- **ポート** -- CA ARCserve Central Protection Manager Web サービスと通信するために使用するポート番号。
- **HTTPS** -- このオプションは、CA ARCserve Central Protection Manager サーバで設定されている接続に基づいて、オンまたはオフになります。
- **ポートとプロトコルの自動検出** -- Protection Manager データベースの CA ARCserve Central Protection Manager ポートおよびプロトコルを取得し、上記のフィールドにロードします。

**注:** CA ARCserve Central Protection Manager サーバのリモートレジストリ アクセスが許可される場合のみ、このオプションは有効です。

リモート レジストリが許可されているかどうかを確認するには、CA ARCserve Central Protection Manager がインストールされている CA ARCserve Central Protection Manager サーバにアクセスし、services.msc を参照して、'Remote Registry' サービスが自動 (Automatic) に設定されていることを確認します。

- **テスト** -- CA ARCserve Central Protection Manager 用のアクセス情報が正しいことを確認します。
4. [保存] をクリックします。

以下の点に注意してください。

- CA ARCserve Central Protection Manager データベース用のアクセス情報は、CA ARCserve Central Reporting サーバに保存されます。このサーバがデータベースにアクセスしてレポートにデータを表示させます。
- CA ARCserve Central Protection Manager でポート、プロトコル、認証情報またはデータベース設定が変更された場合、CA ARCserve Central Reporting 環境設定を更新して CA ARCserve Central Protection Manager での変更に一致するようにする必要があります。
- CA ARCserve Central Protection Manager および CA ARCserve Central Reporting アプリケーションが同じサーバ上にインストールされ、インストール時にデフォルト設定を使用している場合は、CA ARCserve Central Protection Manager サーバの設定は必須ではありません。

## 電子メール設定の環境設定

アプリケーションで使用するための電子メール設定を指定して、指定した条件下でアラートを自動的に送信することができます。

**次の手順に従ってください:**

1. アプリケーションにログインします。  
ホーム画面上のナビゲーションバーから [環境設定] をクリックして、[環境設定] 画面を開きます。
2. [環境設定] パネルで、[電子メール環境設定] をクリックすると、[電子メール環境設定] オプションが表示されます。

3. 以下のフィールドに入力します。
  - **サービス** -- 電子メールサービスの種類をドロップダウンから指定します。（[Google メール]、[Yahoo メール]、[Live メール]、[その他]）
  - **メールサーバ** -- CA ARCserve Central Applications 電子メールの送信に使用される SMTP サーバのホスト名を指定します。
  - **認証が必要** -- 指定したメールサーバで認証が必要な場合は、このオプションを選択します。アカウント名とパスワードは必須です。
  - **件名** -- デフォルトの電子メールの件名を指定します。
  - **送信者** -- 電子メールが送信される電子メールアドレスを指定します。
  - **受信者** -- 電子メールの送信先アドレスを指定します。複数の場合はセミコロン (;) で区切ります。
  - **SSLを使用** -- 指定したメールサーバでセキュアな接続 (SSL) が必要な場合、このオプションを選択します、
  - **STARTTLSの送信** -- 指定したメールサーバで STARTTLS コマンドが必要な場合は、このオプションを選択します。
  - **HTML形式を使用** -- HTML 形式で電子メールメッセージを送信します。（デフォルトで選択されています）
  - **プロキシ設定を有効にする** -- プロキシサーバがある場合は、このオプションを選択してプロキシサーバ設定を指定します。
4. [テスト電子メール] をクリックして、メールの環境設定が正しいことを確認します。
5. [保存] をクリックします。

**注:** [リセット] をクリックすると、事前に保存されていた値に戻ります。

電子メール環境設定が適用されます。

## 更新スケジュールの設定

CA サーバまたはローカルのソフトウェア ステージング サーバから自動的に製品の更新をダウンロードするスケジュールを設定できます。

### 更新スケジュールを設定する方法

1. アプリケーションにログインします。
2. ナビゲーションバーの [環境設定] をクリックして、[環境設定] 画面を開きます。
3. [環境設定] パネルから、[更新環境設定] をクリックします。  
更新の環境設定オプションが表示されます。
4. ダウンロードサーバを選択します。
  - **CA サーバ** -- [プロキシ設定] をクリックして以下のオプションを設定します。
    - **ブラウザのプロキシ設定を使用する** -- ブラウザのプロキシ設定に提供された認証情報を使用します。  
**注:** [ブラウザのプロキシ設定を使用する] オプションは、Internet Explorer と Chrome に影響します。
    - **プロキシ設定の環境設定** -- プロキシサーバの IP アドレスまたはホスト名、およびポート番号を指定します。指定したサーバで認証が必要な場合、[プロキシサーバには認証が必要です] オプションをクリックし、認証情報を指定します。  
[OK] をクリックして、更新環境設定に戻ります。
  - **ステージング サーバ** -- このオプションを選択する場合は、[サーバの追加] をクリックして、ステージング サーバをリストに追加します。ホスト名とポート番号を入力して、[OK] をクリックします。  
複数のステージング サーバを指定した場合、アプリケーションではリストの最初のサーバを使用しようとします。接続に成功した場合、リスト内の残りのサーバはステージングに使用されません。
5. (オプション) [接続テスト] をクリックして、サーバ接続を確認し、テストが完了するまで待機します。

6. (オプション) [更新の自動確認] をクリックし、スケジュールを指定します。日単位または週単位でスケジュールを指定できます。

[保存] をクリックして更新環境設定を適用します。

## プロキシ設定の環境設定

CA ARCserve Central Applications では、ダウンロード可能な更新を確認するために CA サポートとの通信に使用するプロキシサーバを指定できます。この機能を有効にするには、CA ARCserve Central Applications サーバに代わって通信するプロキシサーバを指定します。

### 次の手順に従ってください:

1. アプリケーションにログインし、ナビゲーションバーの [環境設定] をクリックします。

環境設定オプションが表示されます。

2. [更新環境設定] をクリックします。

更新の環境設定オプションが表示されます。

3. [プロキシ設定] をクリックします。

[プロキシ設定] ダイアログ ボックスが表示されます。

4. 以下のいずれかのオプションをクリックします。
- **ブラウザのプロキシ設定を使用する** -- 更新情報を取得するための CA Technologies サーバとの通信で、ブラウザに適用されているのと同じプロキシ設定を検出して使用します。

注: この動作は Internet Explorer および Chrome ブラウザにのみ適用されます。

- **プロキシを設定する** -- 更新をチェックするための CA サポートとの通信で、アプリケーションが使用する代替サーバを定義します。代替サーバ (プロキシ) を使用すると、セキュリティの強化、パフォーマンスの向上、管理制御などに役立ちます。

以下のフィールドに入力します。

- **プロキシサーバ** -- プロキシサーバのホスト名または IP アドレスを指定します。
- **ポート** -- CA サポート Web サイトと通信するためにプロキシサーバが使用するポート番号を指定します。
- **(オプション) プロキシサーバには認証が必要です** -- プロキシサーバ用のログイン認証情報が CA ARCserve Central Applications サーバ用の認証情報と同じでない場合は、[プロキシサーバには認証が必要です] チェック ボックスをオンにし、プロキシサーバへのログインに必要とされるユーザ名およびパスワードを指定します。

注: ユーザ名を指定する際は、「<ドメイン名>/<ユーザ名>」の形式を使用してください。

[OK] をクリックします。

プロキシ設定が指定されました。

## ソーシャル ネットワーキングの環境設定

CA ARCserve Central Applications では、各アプリケーションを管理するのに役立つソーシャル ネットワーキング ツールを管理することができます。ニュース フィードの生成、よく使用されるソーシャル ネットワーキング Web サイトへのリンク 指定、ビデオ ソース Web サイトの選択を行うことができます。

### ソーシャル ネットワーキング環境設定を設定する方法

1. アプリケーションにログインします。  
ホーム画面上のナビゲーション バーから、[環境設定] をクリックします。  
[環境設定] 画面が表示されます。
2. [環境設定] パネルから、[環境設定の設定] をクリックします。  
[環境設定] オプションが表示されます。

The screenshot shows a settings panel with three sections:

- ニュース フィード**
  - エキスパート アドバイス センターからの最新のニュースおよび製品情報を表示します
- ソーシャル ネットワーキング**
  - Facebook および Twitter へのリンクをメイン ページに表示
- ビデオ**
  - CA サポート ビデオの使用
  - YouTube ビデオの使用

3. 必要なオプションを指定します。
  - ニュース フィード -- アプリケーションに、CA ARCserve Central Applications および CA ARCserve D2D に関連するニュースおよび製品情報に対する RSS フィードを表示させます（[エキスパート アドバイスセンター] から）。このフィードはホーム画面に表示されます。
  - ソーシャル ネットワーキング -- アプリケーションのホーム画面に、ツイッターおよび Facebook へのアイコンを表示させ、CA ARCserve Central Applications および CA ARCserve D2D に関連するソーシャル ネットワーキング Web サイトにアクセスできるようにします。
  - ビデオ -- CA ARCserve Central Applications および CA ARCserve D2D 製品を表示するためにビデオの種類を選択します。（デフォルトのビデオは [YouTube ビデオの使用] です。）

[保存] ボタンをクリックします。

[ソーシャル ネットワーキング] オプションが適用されます。
4. ナビゲーションバーから [ホーム] をクリックします。

ホーム画面が表示されます。
5. ブラウザ画面を更新します。

[ソーシャル ネットワーキング] オプションが適用されます。

## 管理者アカウントの変更

CA ARCserve Central Applications では、アプリケーションをインストールした後、管理者アカウントのユーザ名、パスワード、またはその両方を変更できます。この管理者アカウントは、ログイン画面で、デフォルトの表示ユーザ名としてのみ使用されます。

**注:** 指定するユーザ名は、Windows 管理者アカウントか、Windows 管理者権限のあるアカウントである必要があります。

### 次の手順に従ってください:

1. アプリケーションにログインし、ナビゲーションバーの [環境設定] をクリックします。

環境設定オプションが表示されます。
2. [管理者アカウント] をクリックします

3. 管理者アカウント設定が表示されます。
4. 必要に応じて、以下のフィールドを更新します。
  - ユーザ名
  - パスワード

[保存] をクリックします。

管理者アカウントが変更されます。

# 第 4 章: CA ARCserve Central Reporting の 使い方

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Dashboard 画面について](#) (P. 36)

[CA ARCserve Central Reporting の種類](#) (P. 39)

[CA ARCserve Central Reporting ログの表示](#) (P. 100)

[ナビゲーションバーへのリンクの追加](#) (P. 102)

[レポートタスク](#) (P. 103)

[サーバの通信プロトコルの変更](#) (P. 110)

## Dashboard 画面について

Dashboard 画面には、CA ARCserve Central Reporting アプリケーションの左パネルにあるナビゲーションバーからアクセスできます。保護された環境の詳細を、ステータス ロールアップおよびサマリ レポートの単一の一元的なビューで表示できます。それぞれのレポートで、展開して特定のコンピュータにドリルダウンできます。これは、問題の根本的原因を特定するのに役立ちます。

The screenshot shows the CA ARCserve Central Reporting Dashboard. At the top, there are filter and action controls. Below that is a report list on the left and a detailed report view on the right. Annotations include:

- グローバル フィルタ**: Points to the 'Server' and 'Group' dropdowns in the top filter section.
- ローカル フィルタ**: Points to the 'Node Name' and 'Event Type' dropdowns in the report view filter section.
- ローカル アクション**: Points to the 'Event Type' dropdown in the report view filter section.
- グローバル アクション**: Points to the 'Action' dropdown in the top filter section.
- 全レポート選択パネル**: A vertical red line on the left side of the report list.
- レポート ビュー ウィンドウ**: A vertical red line on the right side of the report view window.

ノード名	アラート	イベントの種類	更新時刻	承認
155.251.38.117	CA ARCserve Backup サーバ 155.251.38.117 の同期は、過去 4 日間実行されていません。	同期が未完了	2011-06-10 00:00:00	承認
155.251.38.157	CA ARCserve Central Protection Manager アラート	ポリシー - 展開が失敗	2011-06-10 00:00:00	承認
155.251.38.157	CA ARCserve Central Protection Manager アラート	ポリシー - 展開が失敗	2011-06-10 00:00:00	承認
155.251.38.157	CA ARCserve Central Protection Manager アラート	ポリシー - 展開が失敗	2011-06-10 00:00:00	承認
155.251.38.157	CA ARCserve Central Protection Manager アラート	ポリシー - 展開が失敗	2011-06-10 00:00:00	承認
155.251.38.157	CA ARCserve Central Protection Manager アラート	ポリシー - 展開が失敗	2011-06-09 22:00:00	承認
155.251.38.157	CA ARCserve Central Protection Manager アラート	ポリシー - 展開が失敗	2011-06-09 22:00:00	承認
155.251.38.157	CA ARCserve Central Protection Manager アラート	ポリシー - 展開が失敗	2011-06-09 22:00:00	承認
155.251.38.157	CA ARCserve Central Protection Manager アラート	ポリシー - 展開が失敗	2011-06-09 22:00:00	承認
155.251.38.134	CA ARCserve Central Protection Manager アラート	ポリシー - 展開が失敗	2011-06-09 22:00:00	承認
155.251.38.117	CA ARCserve Backup サーバ 155.251.38.117 の同期は、過去 4 日間実行されていません。	同期が未完了	2011-06-09 18:00:00	承認
155.251.38.134	CA ARCserve D2D サーバ 155.251.38.134 の同期は、過去 3 日間実行されていません。	同期が未完了	2011-06-09 16:00:00	承認
155.251.38.134	CA ARCserve D2D サーバ 155.251.38.134 の同期は、過去 3 日間実行されていません。	同期が未完了	2011-06-09 14:00:00	承認
155.251.38.134	CA ARCserve D2D サーバ 155.251.38.134 の同期は、過去 3 日間実行されていません。	同期が未完了	2011-06-09 00:00:00	承認
155.251.38.134	CA ARCserve D2D サーバ 155.251.38.134 の同期は、過去 3 日間実行されていません。	同期が未完了	2011-06-08 22:00:00	承認

Dashboard 画面では、グローバルおよびローカルという 2 つの方法でレポートをフィルタできます。

- **グローバルフィルタ** -- すべてのレポートに対する表示フィルタを指定します。
  - **サーバ**
    - **すべて** (デフォルト) --CA ARCserve Central Protection Manager サーバに登録されたすべてのノードに結果を表示します。
    - **CA ARCserve Backup**-- [すべて] を選択するか、または CA ARCserve Central Protection Manager サーバに登録された特定の CA ARCserve Backup ノードを選択します。
    - **CA ARCserve D2D**-- [すべて] を選択するか、または CA ARCserve Central Protection Manager サーバに登録された特定の CA ARCserve Backup ノードを選択します。
  - **グループ**

グループフィルタは、CA ARCserve Backup および CA ARCserve Central Protection Manager のデフォルトグループとカスタムグループのアプリケーションの種類および名前を表示します。この選択内容は、レポートリストに表示されたすべてのレポートに適用されます。
  - **全レポートの日付範囲**

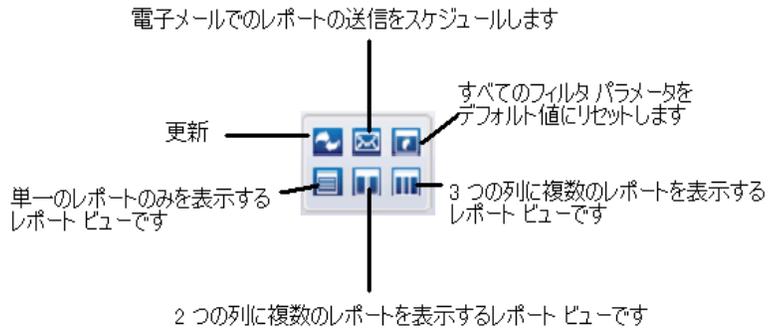
[過去の指定期間内] フィールドにはドロップダウンリストがあり、最も一般的に使用される収集期間 (1、3、7 (デフォルト)、30 日間) があらかじめセットされています。このフィールドには手動で値を入力することもできます。
  - **ノード層**

モニタするノードの層カテゴリを指定します。ここでモニタ対象として選択したノード層に基づいて、すべてのレポートがフィルタされます。

ノード層は、3 つのカテゴリ (高優先度、中優先度、および低優先度) に分類されます。

注: CA ARCserve D2D ノードのノード層は [中優先度] です。

- **グローバルアクション** -- すべてのレポートに適用される以下のいずれかのアイコンを選択します。これらのアイコンの詳細については、「[レポートニングタスク \(P. 103\)](#)」を参照してください。



- **ローカルフィルタ** -- 選択したレポート用のフィルタを指定します。各フィルタの詳細については、「[CA ARCserve Central Reporting の種類 \(P. 39\)](#)」で対象のレポートを参照してください。
- **ローカルアクション** -- 選択したレポートに適用される以下のいずれかのアイコンを選択します。アイコンの詳細については、「[レポートニングタスク \(P. 103\)](#)」を参照してください。



- **レポートビューウィンドウ** -- 選択したレポートの結果を表示します。  
**注:** すべてのレポートデータは、各ノードが登録および同期された CA ARCserve Central Protection Manager から取得されます。詳細については、「[CA ARCserve Central Protection Manager ユーザガイド](#)」の「ノードに対して実行可能な操作」を参照してください。
- **全レポート選択パネル** -- CA ARCserve Central Reporting で提供されるレポートの種類を表示します。各レポートの詳細については、「[CA ARCserve Central Reporting の種類 \(P. 39\)](#)」を参照してください。

## CA ARCserve Central Reporting の種類

CA ARCserve Central Reporting が提供するレポートは、アラート レポート、データトレンドレポート、リソース使用率レポート、バックアップ レポート、およびデータ分布レポートの 5 種類に分類されます。さらに、より詳細な情報を表示するレポートヘッドリルダウンする高度な機能を持つレポートもあります。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[アラート レポート](#) (P. 39)

[データトレンド レポート](#) (P. 44)

[リソース使用率レポート](#) (P. 56)

[バックアップ レポート](#) (P. 70)

[メディアのデータ分布レポート](#) (P. 95)

### アラートレポート

アラート レポートは、特定の期間中の各ノードのアラート メッセージをすべて表示します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[アラート レポート ビュー](#) (P. 40)

## アラートレポートビュー

アラートレポートは、対応するアプリケーションから各ノードのアラートを生成します。レポートには、ノードとイベントタイプに関する詳細情報が表示されます。

アラートレポート画面を表示するには、ナビゲーションバーから [Dashboard] タブをクリックします。

The screenshot shows the 'Alert Report' view in the CA ARCserve Central Reporting interface. The left sidebar lists various report categories such as Alerts, Charts, Resource Usage, Backups, and Data Distribution. The main area displays a table of alerts with the following data:

ノード名	アラート	イベントの種類	更新時刻	承認
li-fe01	<a href="#">CA ARCserve Central Protection Manager アラート</a>	Policy Deploy...	2011-05-26 2...	承認
li-fe01	<a href="#">CA ARCserve Central Protection Manager アラート</a>	Policy Deploy...	2011-05-26 2...	承認
xiahu01	<a href="#">CA ARCserve Central Protection Manager アラート</a>	Policy Deploy...	2011-05-26 1...	承認

メッセージの詳細を確認するには、表示するアラートのハイパーテキストリンクをクリックしてください。



このレポートには、以下のフィルタが含まれます。

- **ノード名** -- CA ARCserve Backup または CA ARCserve D2D ノードのプライマリ サーバ、スタンドアロンサーバまたは Global Dashboard センtral プライマリ サーバの名前を指定します。
- **イベントの種類** -- 選択したノードの以下のイベントの種類を指定します。
  - すべて
  - 新しい更新がある場合
  - 成功したバックアップ、リストア、またはエクスポート ジョブ
  - 失敗したバックアップ、リストア、またはエクスポート ジョブ
  - ポリシー展開が失敗
  - ジョブが失敗
  - PKI アラート
  - デスティネーションの空き容量モニタ
  - 同期が未完了
  - Host-Based VM Backup エラー
  - 仮想スタンバイ モニタ
  - 仮想スタンバイが失敗
  - 仮想スタンバイが成功
  - ジョブ キュー内の待機ジョブのスキップ/マージ
  - ディスカバリ

- **過去（日数）日間** -- 事前定義された一般的に使用されるデータ収集期間（1、3、7（デフォルト）および30日）を指定します。このフィールドには手動で値を入力することもできます。
- **承認の種類** -- すべて、承認、または未承認のメッセージを指定します。

以下の点に注意してください。

- **グローバルフィルタ** - サーバ、グループ、過去（日数）日間、およびノード層フィルタは、このレポートには適用されません。
- **CA ARCserve Central Virtual Standby** アラートを表示するには、CA ARCserve Central Protection Manager アプリケーションでソースノードとモニタを登録します。
- **CA ARCserve Central Host-Based VM Backup** アラートを表示するには、CA ARCserve Central Protection Manager アプリケーションで CA ARCserve D2D 仮想マシンプロキシサーバを登録します。

アラートレポートには、以下の項目の結果が表示されます。

- **ノード名** -- CA ARCserve Backup または CA ARCserve D2D ノードのプライマリサーバ、スタンダアロンサーバまたは Global Dashboard セントラルプライマリサーバの名前を示します。
- **アラートメッセージ** -- 対応するノードのアラートメッセージを示します。

注: アラートメッセージをクリックすると、そのアラートに関する詳細情報が表示されます。

- **イベントの種類** -- 対応するノードのイベントの種類を示します。
- **更新時刻** -- アラートメッセージが最後に更新された時間を示します。
- **承認** -- [承認] ハイパーリンクをクリックして表から削除することにより、アラートメッセージを承認します。

注: 削除されたメッセージを再度表示するには、ローカルフィルタセクションで [承認の種類] ドロップダウンから [承認] を選択します。

注: 各列名にドリルダウンし、昇順または降順で並べ替えることができます。また、画面上にどの列でも表示できます。すべての列はデフォルトで有効です。

## データトレンドレポート

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[アプリケーションデータトレンドレポート \(P. 44\)](#)

[バックアップサイズトレンドレポート \(P. 48\)](#)

[ボリュームトレンドレポート \(P. 53\)](#)

### アプリケーションデータトレンドレポート

アプリケーションデータトレンドレポートは、アプリケーションの種類別に使用されたデータサイズを履歴ビューで表示する SRM タイプのレポートです。このレポートでは、これらのアプリケーションの増加傾向が予測され、将来必要となるディスク容量を予測して準備することができます。このレポートには、サポートされる Windows オペレーティングシステム上で実行されるノードの情報が表示されます。また、ドリルダウンによって、1つのノードについてさらに詳細情報を表示することもできます。

### アプリケーションデータトレンドレポートの利点

アプリケーションデータトレンドレポートは、CA ARCserve Backup および CA ARCserve D2D で保護されているアプリケーションで使用される現在（および過去）のデータサイズを分析するのに役立ちます。さらにこのレポートは、予想増加トレンドに基づいて将来のアプリケーションサイズを見極める上でも役立ちます。この情報を使用することで、将来必要なディスク空き容量を予測し、それに応じた措置を実行して、環境に対する適切な保護レベルを確保できます。このレポートでは、特定または一部のアプリケーションを選択して、それらのアプリケーションの全体的なデータサイズを分析することができます。

## アプリケーション データトレンドレポートビュー

アプリケーション データトレンドレポートは、特定のアプリケーションのデータ使用量 (GB) と、予測される将来のトレンドをグラフ形式で表示します。このレポートでは、表示される期間の表示モード (週、月、年、すべて (デフォルト)、指定期間) を指定できます。グラフの下部にあるスクロールバーを使用すると、期間を調節できます。データ線上の特定のサンプルポイントをクリックして詳細を表示することもできます。

アプリケーション データトレンドレポートでは以下のフィルタを使用できます。

- **サーバ** -- CA ARCserve Central Protection Manager から追加された特定のノードを指定するか、または「すべて」を選択します。
- **グループ** -- CA ARCserve Backup と CA ARCserve Central Protection Manager のデフォルトおよびカスタム グループのアプリケーションタイプと名前を指定するか、または「すべて」を選択します。
- **ノード名** -- エージェント ノードまたは CA ARCserve Backup メンバサーバの名前、CA ARCserve D2D ノードの名前を指定します。
- **ノード層** -- モニタするノードの層カテゴリを指定します。選択したノード層に基づいてすべてのレポートがフィルタされます。

[ノード層] フィールドには、ドロップダウンメニューが含まれ、[高優先度]、[中優先度]、[低優先度] から選択できます。

注: CA ARCserve D2D ノードのノード層は [中優先度] です。

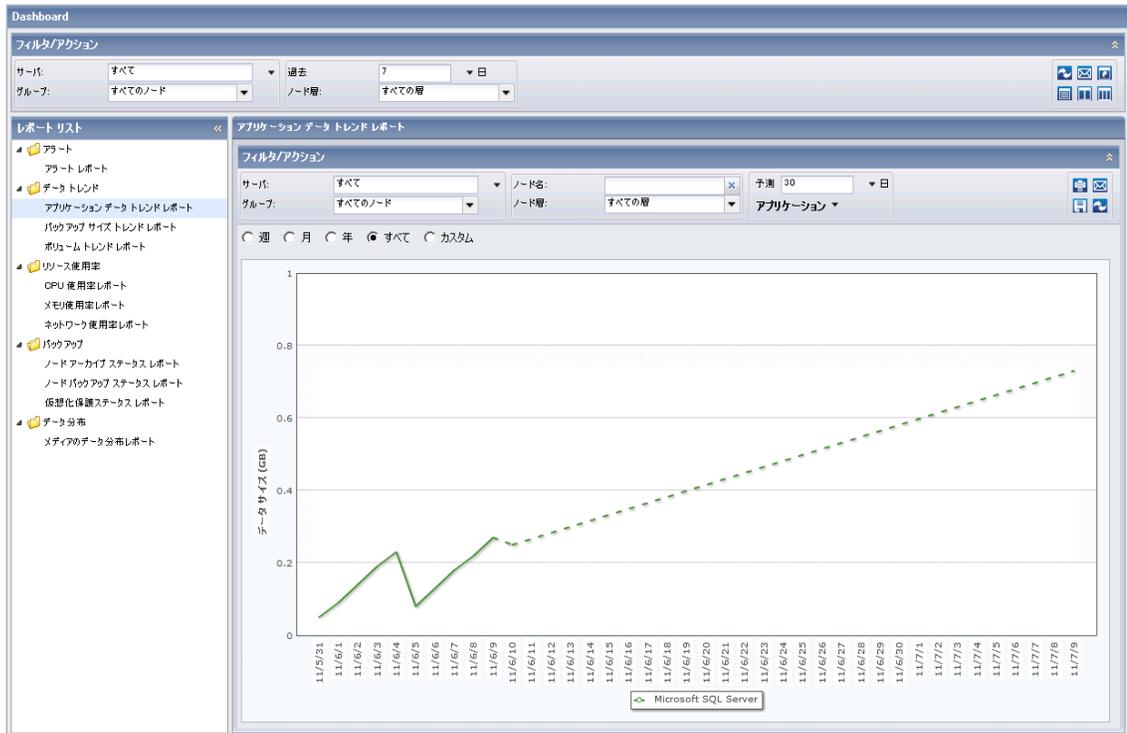
- **予測** -- 予測期間の日数を選択するか手動で入力します (最大 90 日)。
- **アプリケーション** -- 選択したサーバおよびグループに関連した個別のアプリケーションをリスト表示します。

以下のアプリケーションがサポートされています。

- Microsoft SQL Server
- Microsoft Exchange Server
- Microsoft SharePoint Server
- Oracle Server
- Lotus Domino
- Sybase Server

- Informix Dynamic Server
- SAP
- Hyper-V
- VMware

注: CA ARCserve Backup は、これらのアプリケーションをサポートします。ただし、Microsoft SQL Server および Microsoft Exchange Server については、例外的に、CA ARCserve D2D がサポートします。



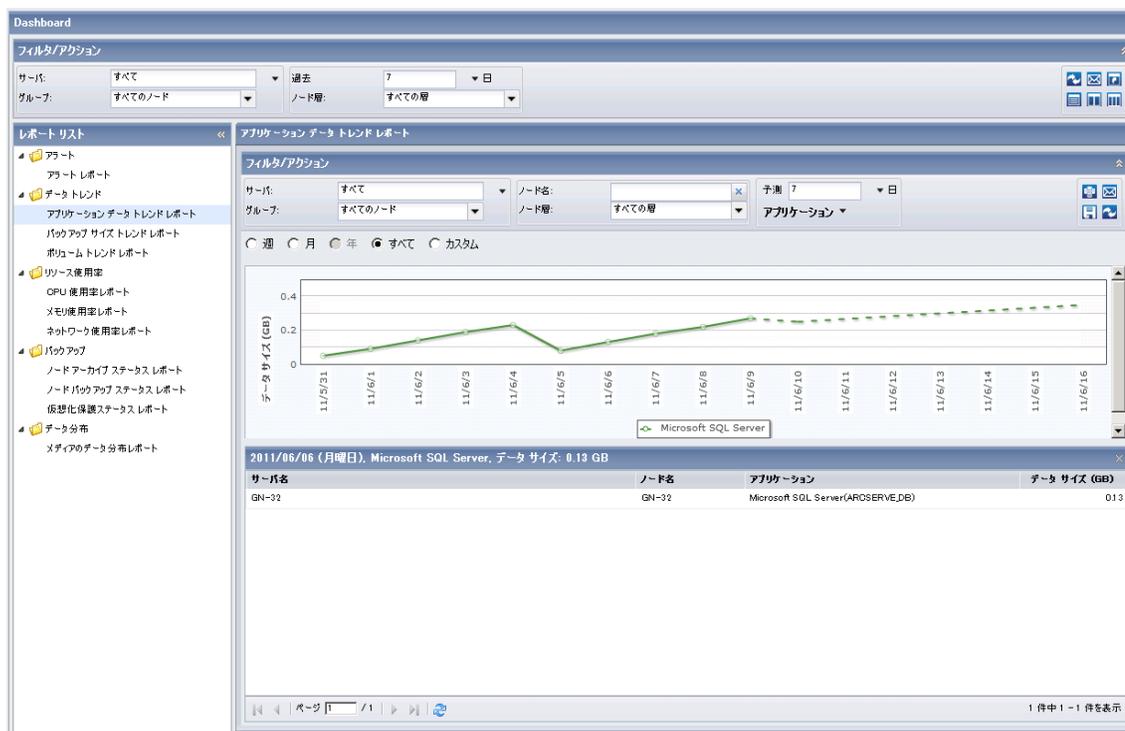
このレポートを使用すると、アプリケーションのストレージ容量に関する予測トレンドを素早く確認して、将来のデータストレージのニーズを計画できます。各アプリケーションのデータは個別の線および色で表示され、予測されるデータは点線で表示されます。さらに、選択したすべてのアプリケーションの合計データサイズ（およびトレンド）を示すサマリ線グラフを表示することもできます。インストールされているアプリケーション（CA ARCserve Backup および CA ARCserve D2D によって保護）のデータのみが表示されます。

注: Oracle データベースの正確なサイズをレポートするには、Oracle インスタンスがアーカイブモードで表示される必要があります。

## アプリケーション データトレンドドリルダウン

アプリケーションデータトレンドレポートは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。線グラフのサンプルポイントをクリックすると、その期間の詳細を表示できます。

以下のサンプルには、アプリケーションデータトレンドレポート用の詳細情報が含まれます。



このドリルダウンレポートには、各アプリケーションについて以下のデータが含まれます。

- **サーバ名** -- 実行されたバックアップに基づいて、以下のサーバ名のうちの1つを表示します。
  - CA ARCserve Backup ノードについては、[サーバ名] フィールドには、ノードが保護される CA ARCserve Backup プライマリ サーバ、スタンドアロンサーバまたはセントラルプライマリサーバ (Global Dashboard 用) の名前が表示されます。
  - CA ARCserve D2D ノードについては、[サーバ名] フィールドには、CA ARCserve D2D バックアップおよびファイルコピーが実行された CA ARCserve D2D ノードのホスト名が表示されます。
- **ノード名** -- エージェント ノードまたは CA ARCserve Backup メンバサーバの名前、CA ARCserve D2D ノードの名前を示します。
- **アプリケーション** -- インストールされたアプリケーションで CA ARCserve Backup または CA ARCserve D2D によって保護されるもののみを示します。
- **データ サイズ (GB)** -- アプリケーションの全体のデータサイズを示します。

**注:** 各列名にドリルダウンし、昇順または降順で並べ替えることができます。また、画面上にどの列でも表示できます。すべての列はデフォルトで有効です。

## バックアップ サイズトレンドレポート

バックアップ サイズトレンドレポートには、CA ARCserve Backup および CA ARCserve D2D の両方のバックアップデータサイズが履歴ビューで表示されます。このレポートでは、今後の増加傾向が予測され、将来のストレージ容量の要件に備えることができます。また、このレポートには、サポートされている Windows オペレーティングシステムで実行されるノードの情報が含まれ、個別のノードにドリルダウンして詳細情報を表示することができます。

## バックアップ サイズトレンドレポートの利点

バックアップ サイズトレンドレポートは、CA ARCserve Backup および CA ARCserve D2D によって保護されているサーバの現在（および過去）のバックアップデータ サイズを分析する際に役立ちます。さらにこのレポートは、予想増加トレンドに基づいて将来のバックアップ サイズを見極める上でも役立ちます。この情報を使用することで、将来必要なディスク空き容量を予測し、それに応じた措置を実行して、環境に対する適切な保護レベルを確保できます。バックアップ サイズトレンドレポートでは、特定のサーバまたは複数のサーバを選択して、それらのサーバの全体的なバックアップ サイズを分析することもできます。

## バックアップ サイズトレンドレポートビュー

バックアップ サイズトレンドレポートは、特定のアプリケーションのデータ使用量 (GB) と、予測される将来のトレンドをグラフ形式で表示します。このレポートでは、表示される期間の表示モード (週、月、年、すべて (デフォルト)、指定期間) を指定できます。グラフの下部にあるスクロールバーを使用すると、期間を調節できます。データ線上の特定のサンプルポイントをクリックして詳細を表示することもできます。

このレポートには、以下のフィルタが含まれます。

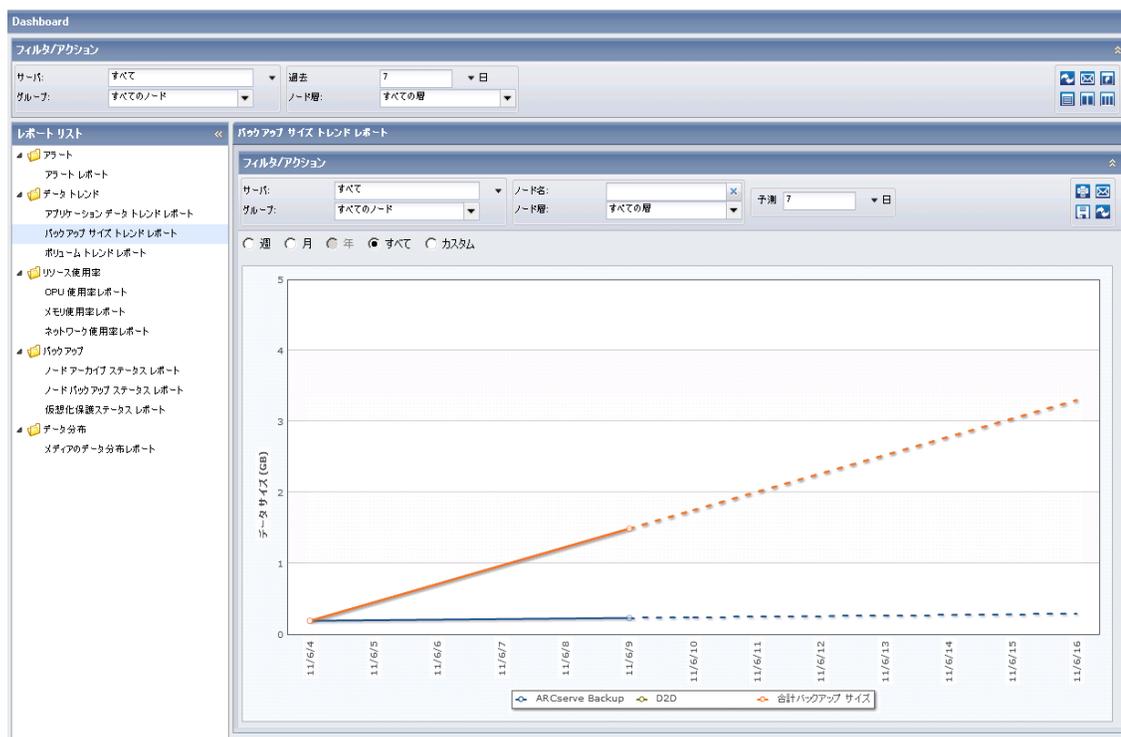
- **サーバ** -- CA ARCserve Central Protection Manager から追加された特定のノードを指定するか、または「すべて」を選択します。
- **グループ** -- CA ARCserve Backup と CA ARCserve Central Protection Manager のデフォルトおよびカスタムグループのアプリケーションタイプと名前を指定するか、または「すべて」を選択します。
- **ノード名** -- エージェント ノードまたは CA ARCserve Backup メンバサーバの名前、CA ARCserve D2D ノードの名前を指定します。
- **ノード層** -- モニタするノードの層カテゴリを指定します。選択したノード層に基づいてすべてのレポートがフィルタされます。

[ノード層]フィールドには、ドロップダウンメニューが含まれ、[高優先度]、[中優先度]、[低優先度] から選択できます。

注: CA ARCserve D2D ノードのノード層は [中優先度] です。

- **予測** -- 予測期間の日数を選択するか手動で入力します (最大 90 日)。
- **アプリケーション** -- 選択したサーバおよびグループに関連した個別のアプリケーションをリスト表示します。

注: サポートされるアプリケーションは CA ARCserve Backup および CA ARCserve D2D です。



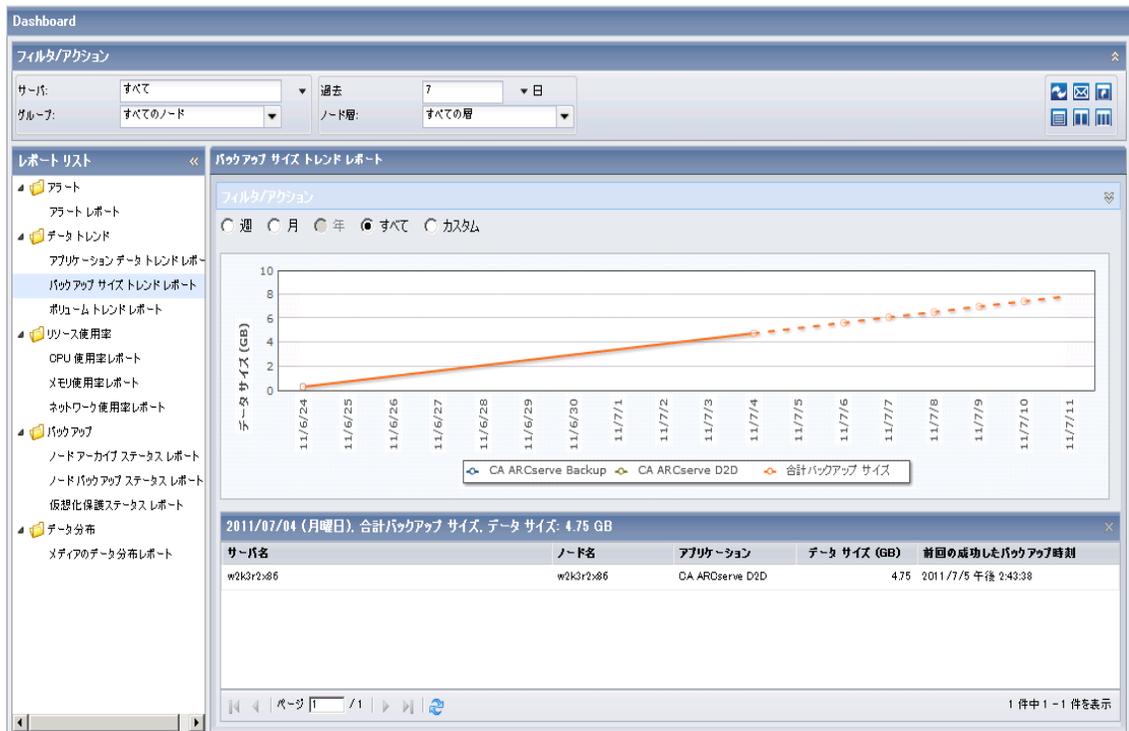
このレポートを使用すると、アプリケーションのストレージ容量に関する予測トレンドを確認して、将来のバックアップのニーズに備えることができます。各アプリケーションのデータは個別の線および色で表示され、予測されるデータは点線で表示されます。さらに、選択したすべてのアプリケーションの合計データ サイズ（およびトレンド）を示すサマリ線グラフを表示することもできます。インストールされているアプリケーション（CA ARCserve Backup および CA ARCserve D2D によって保護）のデータのみが表示されます。

## バックアップ サイズトレンドドリルダウンレポート

バックアップ サイズトレンドレポートは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。線グラフのサンプルポイントをクリックすると、その期間の詳細を表示できます。

**注:** 特定のノードに関する直前の結果については、CA ARCserve Backup および CA ARCserve D2D のバックアップ サイズデータが計算されるように、CA ARCserve Central Protection Manager から SRM プローブ ジョブをサブミットする必要があります。SRM プローブ ジョブを手動で実行しない場合は、スケジュールされた SRM プローブ ジョブの実行後にバックアップ サイズデータが計算されます。SRM プローブ ジョブのサブミット方法の詳細については、「CA ARCserve Central Protection Manager ユーザガイド」の「SRM スケジュールの環境設定」を参照してください。

以下のサンプルには、バックアップ サイズトレンドレポート用の詳細情報が含まれます。



このドリルダウンレポートには、各アプリケーションについて以下のデータが含まれます。

- **サーバ名** -- 実行されたバックアップに基づいて、以下のサーバ名のうちの1つを表示します。
  - CA ARCserve Backup ノードについては、[サーバ名] フィールドには、ノードが保護される CA ARCserve Backup プライマリ サーバ、スタンドアロンサーバまたはセントラルプライマリサーバ (Global Dashboard 用) の名前が表示されます。
  - CA ARCserve D2D ノードについては、[サーバ名] フィールドには、CA ARCserve D2D バックアップおよびファイルコピーが実行された CA ARCserve D2D ノードのホスト名が表示されます。
- **ノード名** -- エージェント ノードまたは CA ARCserve Backup メンバサーバの名前、CA ARCserve D2D ノードの名前を示します。
- **アプリケーション** -- インストールされたアプリケーションで CA ARCserve Backup または CA ARCserve D2D によって保護されるもののみを示します。
- **データ サイズ (GB)** -- アプリケーションの全体のデータ サイズを示します。
- **前回の成功したバックアップ時刻** -- 前回成功したバックアップの日時を示します。

注: 各列名にドリルダウンし、昇順または降順で並べ替えることができます。また、画面上にどの列でも表示できます。すべての列はデフォルトで有効です。

## ボリュームトレンドレポート

ボリュームトレンドレポートは SRM レポートの1つで、各ボリュームの使用データ サイズを履歴ビューに表示します。このレポートでは、これらのボリュームの増加傾向が予測され、将来必要となるボリューム容量を予測して準備することができます。このレポートには、サポートされている Windows オペレーティングシステムを実行する CA ARCserve D2D および CA ARCserve Backup のインストール済みノードの情報が表示されません。ノードごとにドリルダウンして詳細情報を表示することができます。

## ボリュームトレンドレポートの利点

ボリュームトレンドレポートは、各ボリュームの現在（および過去）の使用データサイズを分析するのに役立ちます。さらにこのレポートは、予想増加トレンドに基づいて将来のボリュームサイズのニーズを見極める上でも役立ちます。この情報を使用することで、将来必要なボリューム空き容量を予測し、それに応じた措置を実行して、環境に対する適切な保護レベルを確保できます。

## ボリュームトレンドレポートビュー

ボリュームトレンドレポートは、各ボリュームの使用済みスペースと空きスペース容量 (GB)、および将来の期間の予測トレンドをグラフ形式で表示します。このレポートでは、表示される期間の表示モード（週、月、年、すべて（デフォルト）、指定期間）を指定できます。

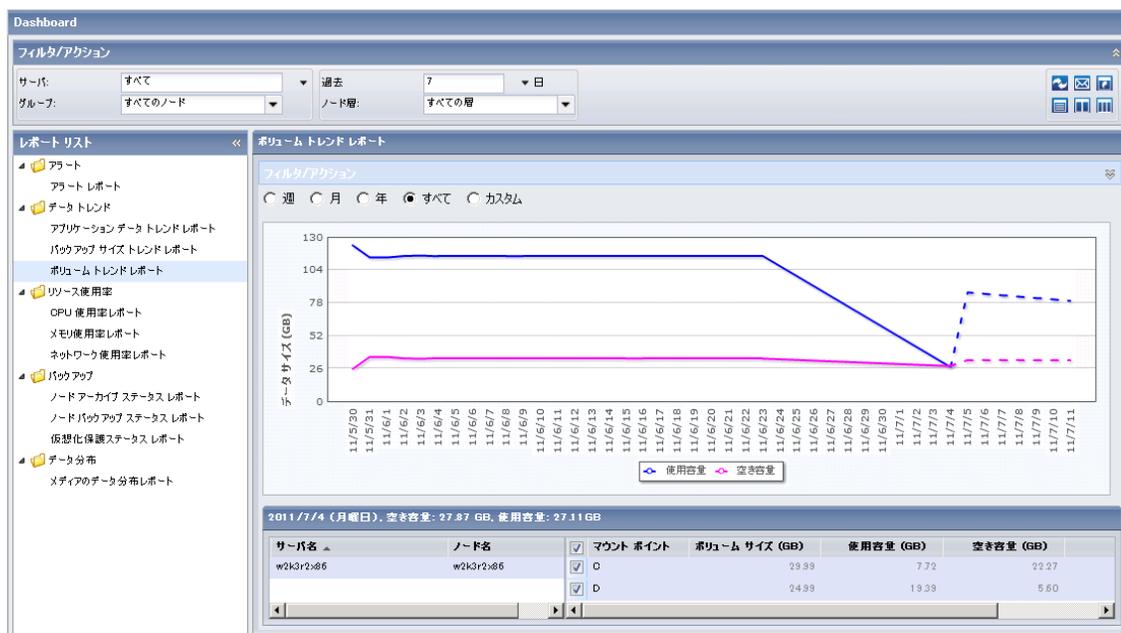
このレポートには、以下のフィルタが含まれます。

- **サーバ** -- CA ARCserve Central Protection Manager から追加された特定のノードを指定するか、または「すべて」を選択します。
- **グループ** -- CA ARCserve Backup と CA ARCserve Central Protection Manager のデフォルトおよびカスタムグループのアプリケーションタイプと名前を指定するか、または「すべて」を選択します。
- **ノード名** -- エージェント ノードまたは CA ARCserve Backup メンバサーバの名前、CA ARCserve D2D ノードの名前を指定します。
- **ノード層** -- モニタするノードの層カテゴリを指定します。選択したノード層に基づいてすべてのレポートがフィルタされます。  
[ノード層]フィールドには、ドロップダウンメニューが含まれ、[高優先度]、[中優先度]、[低優先度] から選択できます。  
注: CA ARCserve D2D ノードのノード層は [中優先度] です。
- **予測** -- 予測期間の日数を選択するか手動で入力します（最大 90 日）。

このレポートを使用すると、各ボリュームの容量に関する予測トレンドを素早く確認して、将来のニーズを計画できます。各ボリューム カテゴリ（使用容量および空き容量）のデータは、個別の線と色で表示され、予測データは点線で表示されます。

デフォルトでは、ボリュームトレンドレポートはドリルダウンレポートを表示します。

以下のサンプルには、ボリュームトレンドレポートの詳細情報が含まれています。



このドリルダウン レポートには以下が含まれます。

- **サーバ名** -- 実行されたバックアップに基づいて、以下のサーバ名のうちの1つを表示します。
  - CA ARCserve Backup ノードについては、[サーバ名] フィールドには、ノードが保護される CA ARCserve Backup プライマリ サーバ、スタンドアロン サーバまたはセントラルプライマリ サーバ (Global Dashboard 用) の名前が表示されます。
  - CA ARCserve D2D ノードについては、[サーバ名] フィールドには、CA ARCserve D2D バックアップおよびファイルコピーが実行された CA ARCserve D2D ノードのホスト名が表示されます。
- **ノード名** -- エージェント ノードまたは CA ARCserve Backup メンバサーバの名前、CA ARCserve D2D ノードの名前を示します。
- **マウント ポイント** -- ボリュームがマウントされているルートディレクトリを示します。
- **ボリューム サイズ (GB)** -- 対応するノードのボリューム サイズを示します。
- **使用容量 (GB)** -- 対応するノードの使用済み容量を示します。
- **空き容量 (GB)** -- 対応するノードの残りの空き容量を示します。
- **使用容量 (%)** -- 対応するノードの容量使用率を示します。

複数のノード名をオンにして複数のボリュームの組み合わせを選択し、その合計サイズのトレンドを表示させることもできます。

**注:** 各列名にドリルダウンし、昇順または降順で並べ替えることができます。また、画面上にどの列でも表示できます。すべての列はデフォルトで有効です。

## リソース使用率レポート

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[CPU 使用率レポート \(P. 57\)](#)

[メモリ使用率レポート \(P. 61\)](#)

[ネットワーク使用率レポート \(P. 65\)](#)

## CPU 使用率レポート

CPU 使用率レポートには、CA ARCserve Backup および CA ARCserve D2D によって保護されているサーバの指定した期間における CPU 使用率が表示されます。頻繁に過負荷状態になり過ぎることがないように、CPU 使用率をモニタすることは重要です。CPU 使用率が高すぎると、サーバの応答時間が遅くなるか、反応しなくなる場合があります。この状況が発生した場合、どのプロセスがこの高い CPU 使用率を引き起こしているか特定し、問題を解決する必要があります。

### CPU 使用率レポートの利点

CPU 使用率レポートは、CPU の数、CPU のメーカー、CPU のアーキテクチャ（32 ビットまたは 64 ビット）に基づいてマシンをすばやく分類するのに役立ちます。この全体像から、バックアップジョブに対してどの CPU が最も効率が良く、どの CPU に問題の可能性があるかを分析して特定することができます。

たとえば、スループット値の低いノードを特定する場合は、このレポートでノードの CPU 速度をモニタできます。遅い CPU や同じメーカー製の CPU の動作パターンを調べることができます。32 ビット CPU ノードは、64 ビット CPU ノードに比べてスループットが低くなる場合があります。

最も速いスループット値を基準として使用し、その CPU のパフォーマンスが高い理由を分析することもできます。遅い CPU と速い CPU を比較して、CPU 自体に問題があるのかどうか、両方の値が似ているかどうかを判定することができます。遅い CPU はパフォーマンスが悪いのではない可能性があります。

このレポートから、CPU ハードウェアをアップグレードする必要があるかどうかを判断できます。

問題が潜在している CPU を特定し、同じ CPU が搭載されたノードに頻繁に問題が発生するかどうかを判定するために動作パターンは常に調べておいてください。問題のノードの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

## CPU 使用率レポートビュー

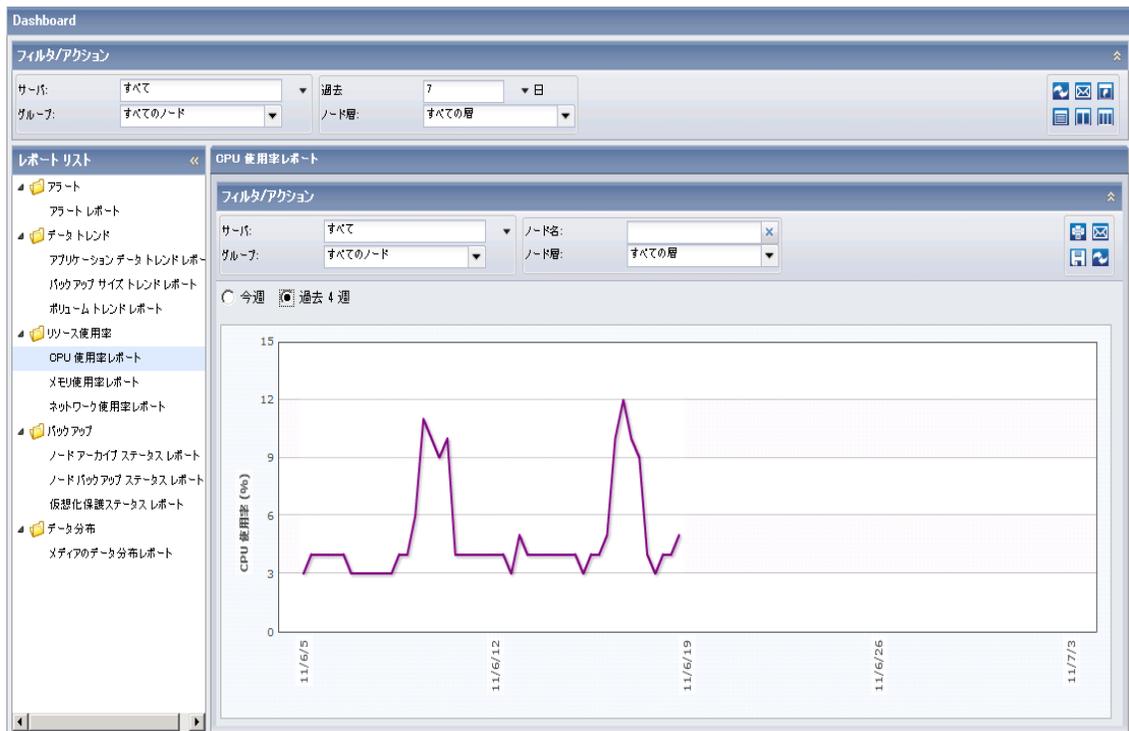
CPU 使用率レポートは、グラフ形式で表示され、指定された期間におけるモニタ対象サーバの CPU 使用率の履歴が示されます(サポートされている Windows オペレーティングシステムを実行している CA ARCserve D2D および CA ARCserve Backup のインストール済みノードのみ)。このレポートを使用すると、表示された期間のビューモード(今週または過去 4 週)を指定できます。[今週] モードは今週の日曜日から開始されるデータを表示し、[過去 4 週] モードは、過去 4 週間のデータを表示します。

このレポートには、以下のフィルタが含まれます。

- **サーバ** -- CA ARCserve Central Protection Manager から追加された特定のノードを指定するか、または「すべて」を選択します。
- **グループ** -- CA ARCserve Backup と CA ARCserve Central Protection Manager のデフォルトおよびカスタム グループのアプリケーションタイプと名前を指定するか、または「すべて」を選択します。
- **ノード名** -- エージェント ノードまたは CA ARCserve Backup メンバサーバの名前、CA ARCserve D2D ノードの名前を指定します。
- **ノード層** -- モニタするノードの層カテゴリを指定します。選択したノード層に基づいてすべてのレポートがフィルタされます。

[ノード層]フィールドには、ドロップダウンメニューが含まれ、[高優先度]、[中優先度]、[低優先度] から選択できます。

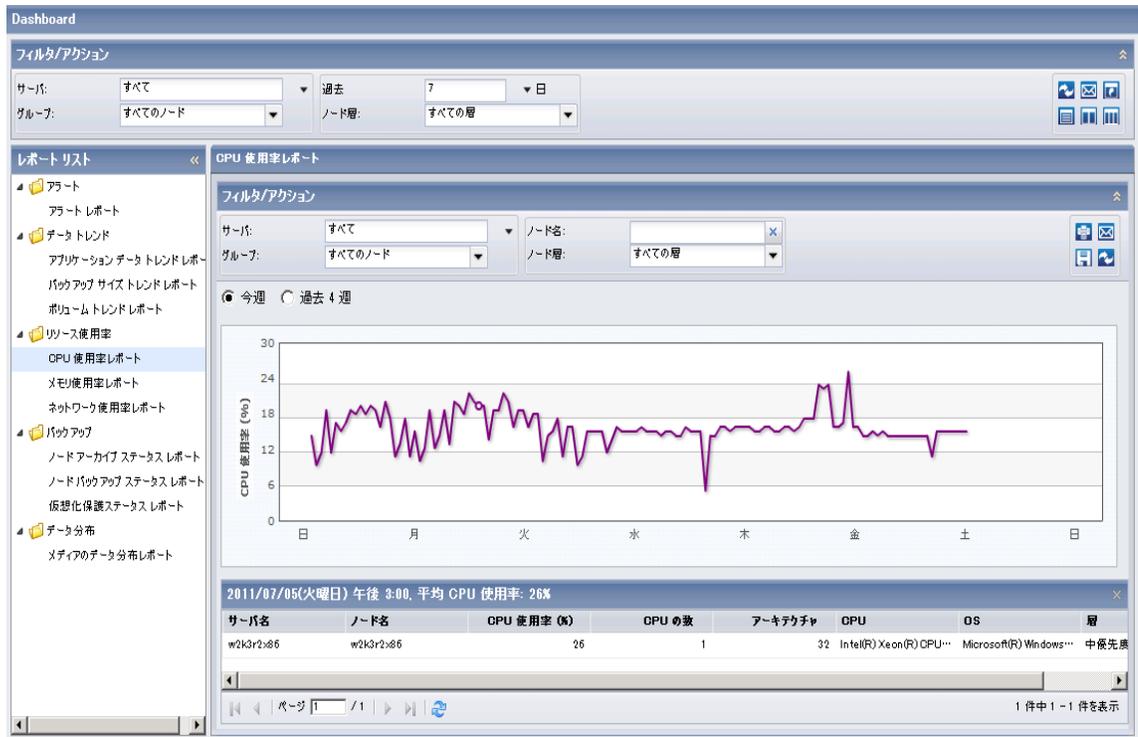
注: CA ARCserve D2D ノードのノード層は [中優先度] です。



## CPU 使用率ドリルダウンレポート

CPU 使用率レポートは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。線グラフのサンプルポイントをクリックすると、その特定期間の詳細を表示できます。

以下のサンプルには、CPU 使用率レポート用の詳細情報が含まれます。



このドリルダウンレポートには以下のデータが含まれます。

- **サーバ名** -- 実行されたバックアップに基づいて、以下のサーバ名のうちの1つを表示します。
  - CA ARCserve Backup ノードについては、[サーバ名] フィールドには、ノードが保護される CA ARCserve Backup プライマリ サーバ、スタンドアロンサーバまたはセントラルプライマリサーバ (Global Dashboard 用) の名前が表示されます。
  - CA ARCserve D2D ノードについては、[サーバ名] フィールドには、CA ARCserve D2D バックアップおよびファイルコピーが実行された CA ARCserve D2D ノードのホスト名が表示されます。
- **ノード名** -- エージェント ノードまたは CA ARCserve Backup メンバサーバの名前、CA ARCserve D2D ノードの名前を示します。

- **CPU 使用率 (%)** --各ノードの CPU 使用率を示します。
- **CPU の数** -- 対応するノードで使用される CPU の数を示します。
- **アーキテクチャ** -- CPU が 32 ビットか 64 ビット バージョンかを示します。
- **CPU (中央処理装置)** -- 使用される CPU の種類を示します。
- **OS (オペレーティングシステム)** -- 使用されるオペレーティングシステムの種類を示します。
- **層** -- ノードの優先度レベルを示します。

注: 各列名にドリルダウンし、昇順または降順で並べ替えることができます。また、画面上にどの列でも表示できます。すべての列はデフォルトで有効です。

## メモリ使用率レポート

このレポートには、指定した期間におけるクライアントノードのメモリ使用率 (%) が履歴ビューで表示されます。このレポートには、サポートされている Windows オペレーティングシステムで実行されるノードの情報が含まれます。個別のノードにドリルダウンして詳細情報を表示することができます。

## メモリ使用率レポートの利点

メモリ使用率レポートには、CA ARCserve Backup および CA ARCserve D2D によって保護されているサーバの指定した期間中のメモリ使用率が表示されます。使用率は、メモリ容量のどれくらいが使用されているかを表します。使用率が高くなるほど、メモリのパフォーマンスは低くなります。メモリ使用率が頻繁に高くなりすぎる場合、原因となっているプロセスを特定する必要があります。このレポートを使用すると、アプリケーションまたはサーバのアップグレードがいつ必要かを決定できます。

## メモリ使用率レポートビュー

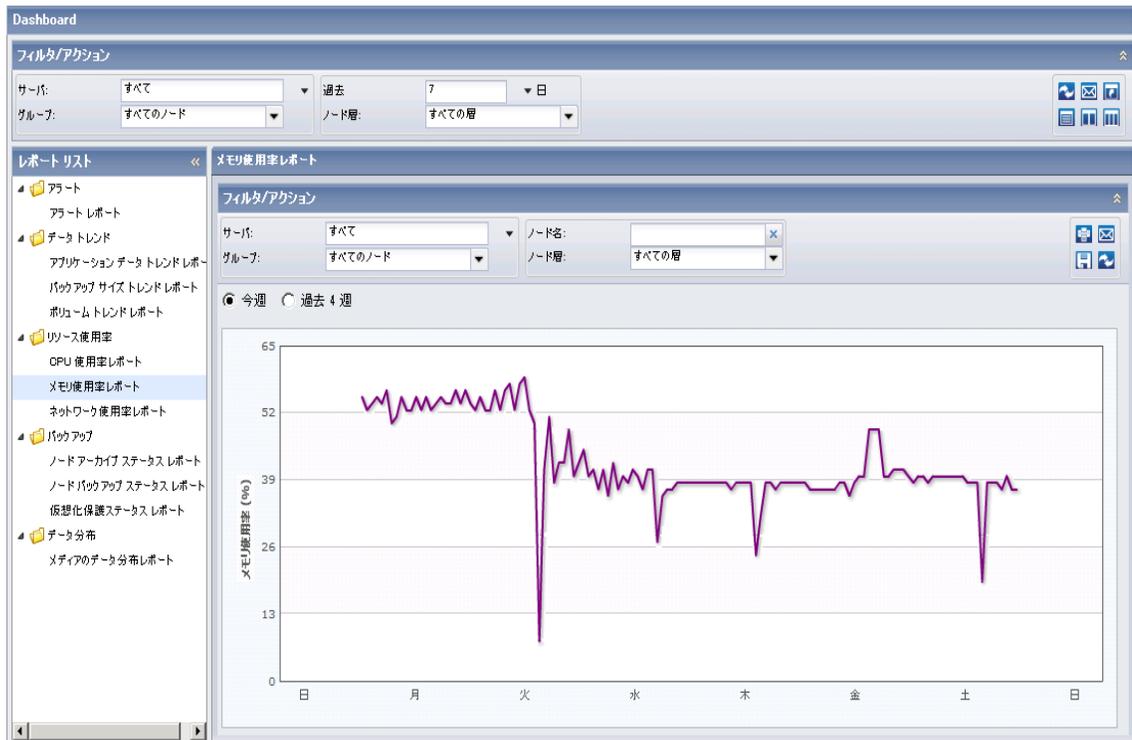
メモリ使用率レポートは、グラフ形式で表示され、指定された期間におけるモニタ対象サーバのメモリ使用率の履歴が示されます (サポートされている Windows オペレーティング システムを実行している CA ARCserve D2D および CA ARCserve Backup のインストール済みノードのみ)。このレポートを使用すると、表示された期間のビュー モード (今週または過去 4 週) を指定できます。[今週] モードは今週の日曜日から開始されるデータを表示し、[過去 4 週] モードは、過去 4 週間のデータを表示します。データ線上の任意のサンプル ポイントをクリックすると、そのサンプル ポイントに関する詳細を表示できます。

このレポートには、以下のフィルタが含まれます。

- **サーバ** -- CA ARCserve Central Protection Manager から追加された特定のノードを指定するか、または「すべて」を選択します。
- **グループ** -- CA ARCserve Backup と CA ARCserve Central Protection Manager のデフォルトおよびカスタム グループのアプリケーション タイプと名前を指定するか、または「すべて」を選択します。
- **ノード名** -- エージェント ノードまたは CA ARCserve Backup メンバサーバの名前、CA ARCserve D2D ノードの名前を指定します。
- **ノード層** -- モニタするノードの層カテゴリを指定します。選択したノード層に基づいてすべてのレポートがフィルタされます。

[ノード層] フィールドには、ドロップダウン メニューが含まれ、[高優先度]、[中優先度]、[低優先度] から選択できます。

注: CA ARCserve D2D ノードのノード層は [中優先度] です。



## メモリ使用率ドリルダウンレポート

メモリ使用率レポートは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。線グラフのサンプルポイントをクリックすると、その特定期間の詳細を表示できます。

以下のサンプルには、メモリ使用率レポートの詳細情報が含まれています。



このドリルダウンレポートには、各ノードの以下のアイテムが含まれます。

- **サーバ名** -- 実行されたバックアップに基づいて、以下のサーバ名のうちの1つを表示します。
  - CA ARCserve Backup ノードについては、[サーバ名] フィールドには、ノードが保護される CA ARCserve Backup プライマリ サーバ、スタンドアロンサーバまたはセントラルプライマリサーバ (Global Dashboard 用) の名前が表示されます。
  - CA ARCserve D2D ノードについては、[サーバ名] フィールドには、CA ARCserve D2D バックアップおよびファイルコピーが実行された CA ARCserve D2D ノードのホスト名が表示されます。

- **ノード名** -- エージェント ノードまたは CA ARCserve Backup メンバサーバの名前、CA ARCserve D2D ノードの名前を示します。
- **メモリ使用率 (%)** -- 対応するノードのメモリ使用量の割合を示します。
- **メモリ容量** -- 対応するノードのメモリ容量を示します。
- **ページファイル使用率 (%)** -- 対応するノードのページファイル使用率を示します。
- **ページファイル容量** -- 対応するノードのページファイル容量を示します。
- **OS (オペレーティングシステム)** -- 使用されるオペレーティングシステムの種類を示します。
- **層** -- ノードの優先度レベルを示します。

また、個々のノード名をクリックすると、そのノードの線グラフが全体の線グラフ上に重ねて表示されます。

以下の点に注意してください。

- 各列名にドリルダウンし、昇順または降順で並べ替えることができます。また、画面上にどの列でも表示できます。すべての列はデフォルトで有効です。
- ページファイルは、ハードディスクドライブの予約済みの部分で、データセグメントを一時的に保存するために使用されます。すべてのアプリケーションが要求しているメモリを確保できない場合、このデータが物理メモリからスワップされ、アプリケーションのために物理メモリの一部が解放されます。ページファイルは、スワップファイルとも呼ばれます。

## ネットワーク使用率レポート

このレポートには、指定した期間におけるクライアントノードのネットワーク容量の使用率 (%) が履歴ビューで表示されます。このレポートには、サポートされている Windows オペレーティングシステムで実行されるノードの情報が含まれます。個別のノードにドリルダウンして詳細情報を表示することができます。

## ネットワーク使用率レポートの利点

ネットワーク使用率レポートには、CA ARCserve Backup および CA ARCserve D2D によって保護されているサーバの指定した期間中の NIC 帯域幅の使用率が表示されます。使用率は、ネットワーク インターフェース (NIC) のどれくらいが使用されているかを表します。使用率が高くなるほど、ネットワークのパフォーマンスは低くなるため、ネットワーク使用率はできるだけ低く抑えます。ネットワーク使用率が頻繁に高くなりすぎる場合、原因となっているプロセスを特定して問題を解決する必要があります。

## ネットワーク使用率レポートビュー

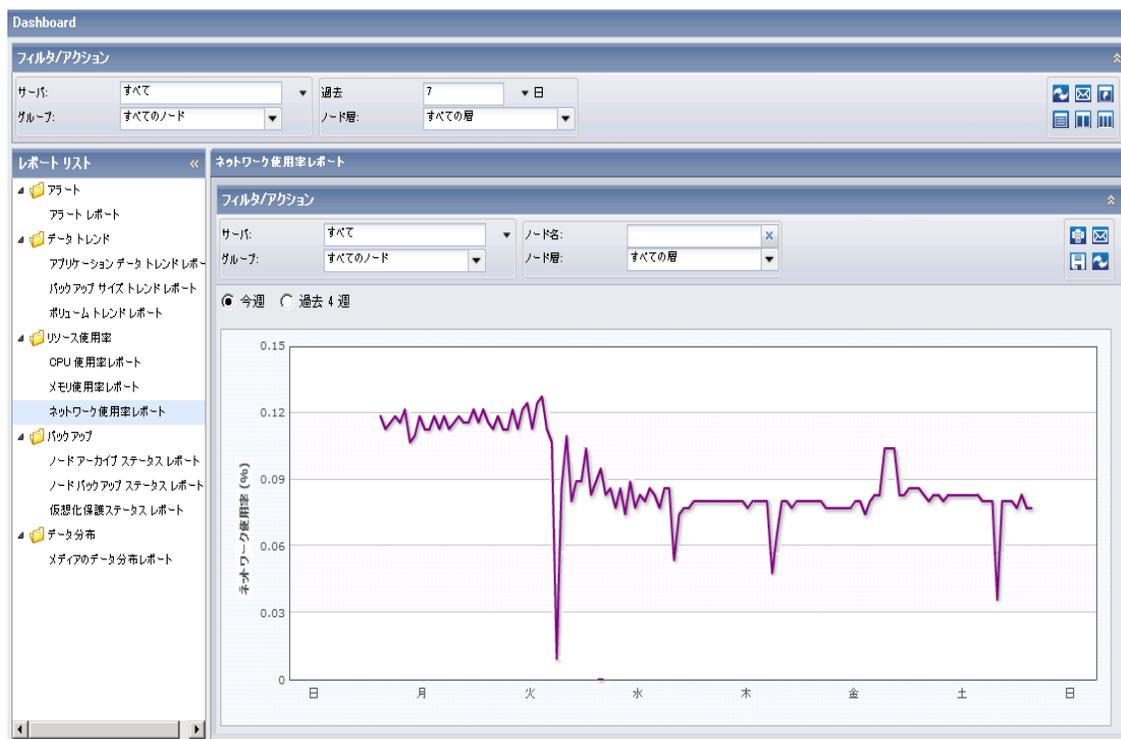
ネットワーク使用率レポートは、グラフ形式で表示され、指定された期間におけるモニタ対象サーバのネットワーク使用率の履歴が示されます（サポートされている Windows オペレーティング システムを実行している CA ARCserve D2D および CA ARCserve Backup のインストール済みノードのみ）。このレポートを使用すると、表示された期間のビューモード（今週または過去 4 週）を指定できます。[今週] モードは今週の日曜日から開始されるデータを表示し、[過去 4 週] モードは、過去 4 週間のデータを表示します。データ線上の任意のサンプルポイントをクリックすると、そのサンプルポイントに関する詳細を表示できます。

このレポートには、以下のフィルタが含まれます。

- **サーバ** -- CA ARCserve Central Protection Manager から追加された特定のノードを指定するか、または「すべて」を選択します。
- **グループ** -- CA ARCserve Backup と CA ARCserve Central Protection Manager のデフォルトおよびカスタムグループのアプリケーションタイプと名前を指定するか、または「すべて」を選択します。
- **ノード名** -- エージェント ノードまたは CA ARCserve Backup メンバサーバの名前、CA ARCserve D2D ノードの名前を指定します。
- **ノード層** -- モニタするノードの層カテゴリを指定します。選択したノード層に基づいてすべてのレポートがフィルタされます。

[ノード層] フィールドには、ドロップダウンメニューが含まれ、[高優先度]、[中優先度]、[低優先度] から選択できます。

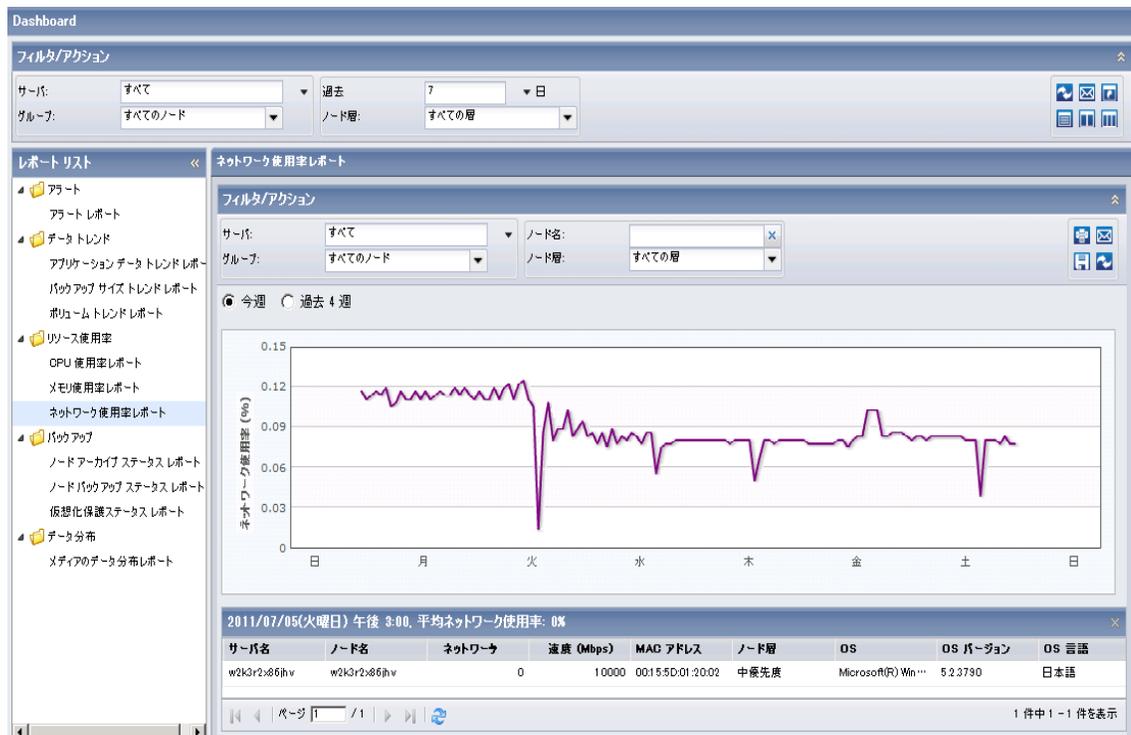
注: CA ARCserve D2D ノードのノード層は [中優先度] です。



## ネットワーク使用率ドリルダウンレポート

ネットワーク使用率レポートは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。線グラフのサンプルポイントをクリックすると、その特定期間の詳細を表示できます。

以下のサンプルには、ネットワーク使用率レポートの詳細情報が含まれています。



このドリルダウンレポートには、各ノードの以下のアイテムが含まれます。

- **サーバ名** -- 実行されたバックアップに基づいて、以下のサーバ名のうちの1つを表示します。
  - CA ARCserve Backup ノードについては、[サーバ名] フィールドには、ノードが保護される CA ARCserve Backup プライマリ サーバ、スタンドアロン サーバまたはセントラルプライマリ サーバ (Global Dashboard 用) の名前が表示されます。
  - CA ARCserve D2D ノードについては、[サーバ名] フィールドには、CA ARCserve D2D バックアップおよびファイルコピーが実行された CA ARCserve D2D ノードのホスト名が表示されます。

- **ノード名** -- エージェント ノードまたは CA ARCserve Backup メンバサーバの名前、CA ARCserve D2D ノードの名前を示します。
- **ネットワーク使用率 (%)** -- 対応するノードのネットワーク使用率を示します。
- **速度 (Mbps)** -- 対応するノードの帯域幅速度を示します。
- **MAC アドレス** -- 対応するノードの MAC アドレスを示します。
- **ノード層** -- ノードの優先度レベルを示します。

また、個々のノード名をクリックすると、そのノードの線グラフが全体の線グラフ上に重ねて表示されます。

以下の点に注意してください。

- 各列名にドリルダウンし、昇順または降順で並べ替えることができます。また、画面上にどの列でも表示できます。すべての列はデフォルトで有効です。
- **MAC (メディアアクセス制御) アドレス**は、製造元によって割り当てられ、識別用にネットワーク アダプタまたはネットワーク インターフェースカード (NIC) と関連付けられるハードウェア固有の値です。

## バックアップレポート

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[ノードアーカイブステータスレポート \(P. 70\)](#)

[ノードバックアップステータスレポート \(P. 78\)](#)

[仮想化保護ステータスレポート \(P. 86\)](#)

## ノードアーカイブステータスレポート

このレポートには、指定した期間における CA ARCserve Backup ノードの最新アーカイブステータスと、CA ARCserve D2D ノードのファイルコピーステータスが表示されます。このレポートを使用してドリルダウンし、各選択カテゴリの詳細情報を表示することができます。

## ノードアーカイブ ステータス レポートの利点

ノードアーカイブ ステータス レポートは、どのノードのアーカイブ/ファイル コピー ジョブが他よりも効率的であるか、問題の可能性のある領域はどこかを分析し特定するのに役立ちます。

たとえば、通常、このレポートを使用して、ノード別に最新のアーカイブ/ファイル コピー ジョブのステータスをチェックすることができます。前日からのステータスがすべて緑（成功）の場合、対応するノードが正常にアーカイブ/ファイル コピーされたことがわかります。しかし、ステータスが赤（失敗）の場合、ドリルダウンレポートのアクティビティ ログをすぐに分析して問題の領域を特定し、遅延を最低限に抑えながら修正することができます。また、日々のノードステータスをモニタして、環境内のノードステータス ジョブの動作傾向を見極めることもできます。

常に動作のパターンを探して問題の可能性のあるノードを特定し、同じノードが頻繁に失敗しているかどうかを判断します。問題のノードの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

## ノードアーカイブ ステータス レポートビュー

ノードアーカイブ ステータス レポートは円グラフまたは棒グラフとして表示することができます。

このレポートには、以下のフィルタが含まれます。

- **サーバ** -- CA ARCserve Central Protection Manager から追加された特定のノードを指定するか、または「すべて」を選択します。
- **グループ** -- CA ARCserve Backup と CA ARCserve Central Protection Manager のデフォルトおよびカスタム グループのアプリケーションタイプと名前を指定するか、または「すべて」を選択します。
- **ノード名** -- エージェント ノードまたは CA ARCserve Backup メンバサーバの名前、CA ARCserve D2D ノードの名前を指定します。
- **ノード層** -- モニタするノードの層カテゴリを指定します。選択したノード層に基づいてすべてのレポートがフィルタされます。

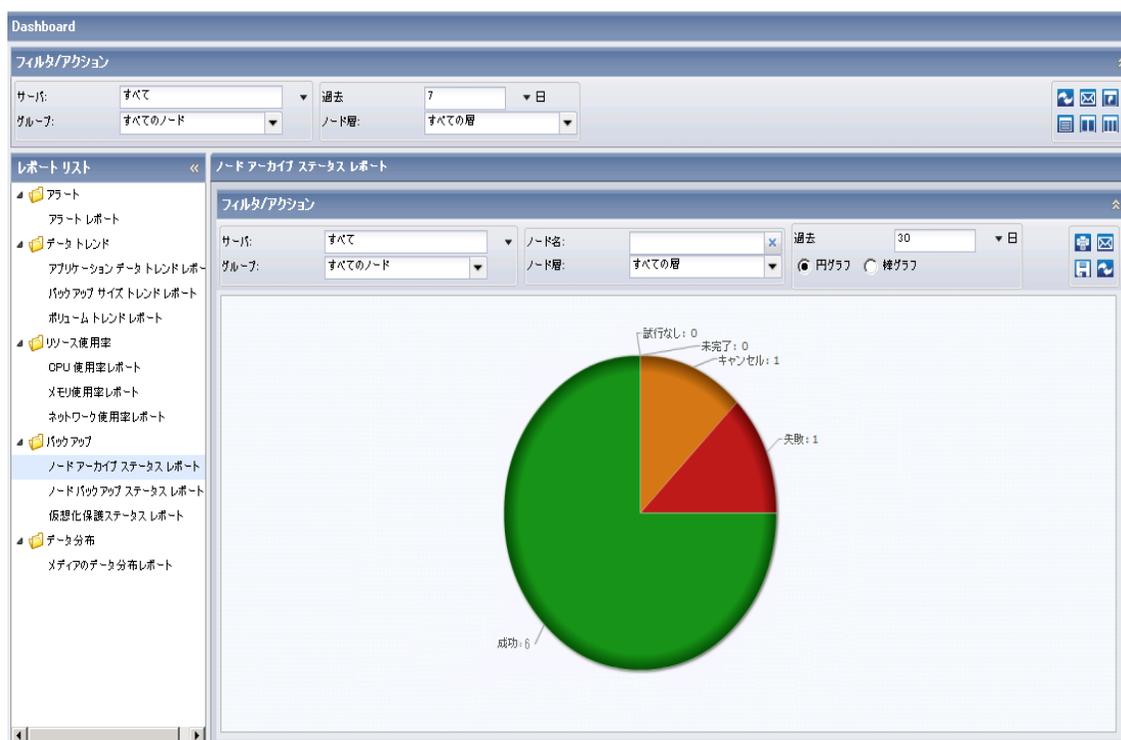
[ノード層]フィールドには、ドロップダウンメニューが含まれ、[高優先度]、[中優先度]、[低優先度] から選択できます。

注: CA ARCserve D2D ノードのノード層は [中優先度] です。

- **過去 (日数) 日間** -- 事前定義された最も一般的に使用されるデータ収集期間 (1、3、7 (デフォルト) および 30 日) を指定します。このフィールドには手動で値を入力することもできます。

## 円グラフ

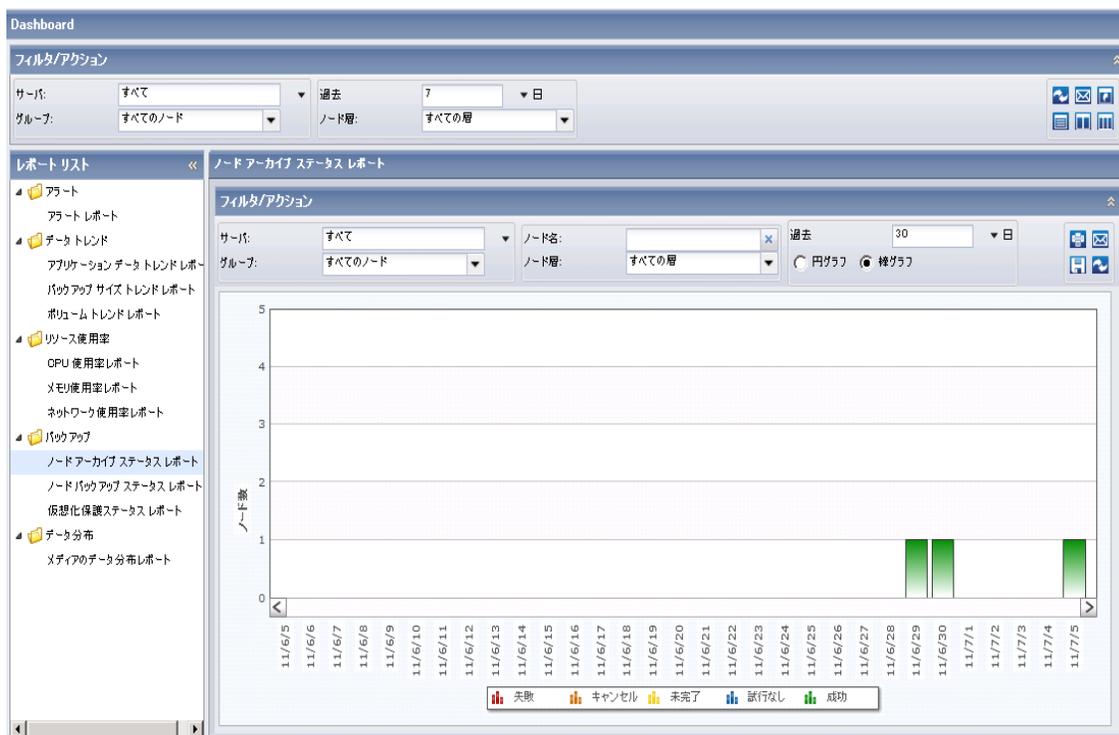
円グラフは、指定した期間の**すべての日**にアーカイブ/コピー&ペーストされたノードの**大まかな概要**を提供します。円グラフに示されたステータスカテゴリは、過去の指定日数の間にアーカイブされたノードの**合計数の割合**と各ノードの最新のステータスを示します。



## 棒グラフ

棒グラフは、指定した期間の**各日**にアーカイブ/コピー&ペーストされたノードの**詳細レベルのビュー**を提供します。棒グラフに示されたステータスカテゴリは、過去の指定日数の間にアーカイブされたノードの**日単位の数**を示します。

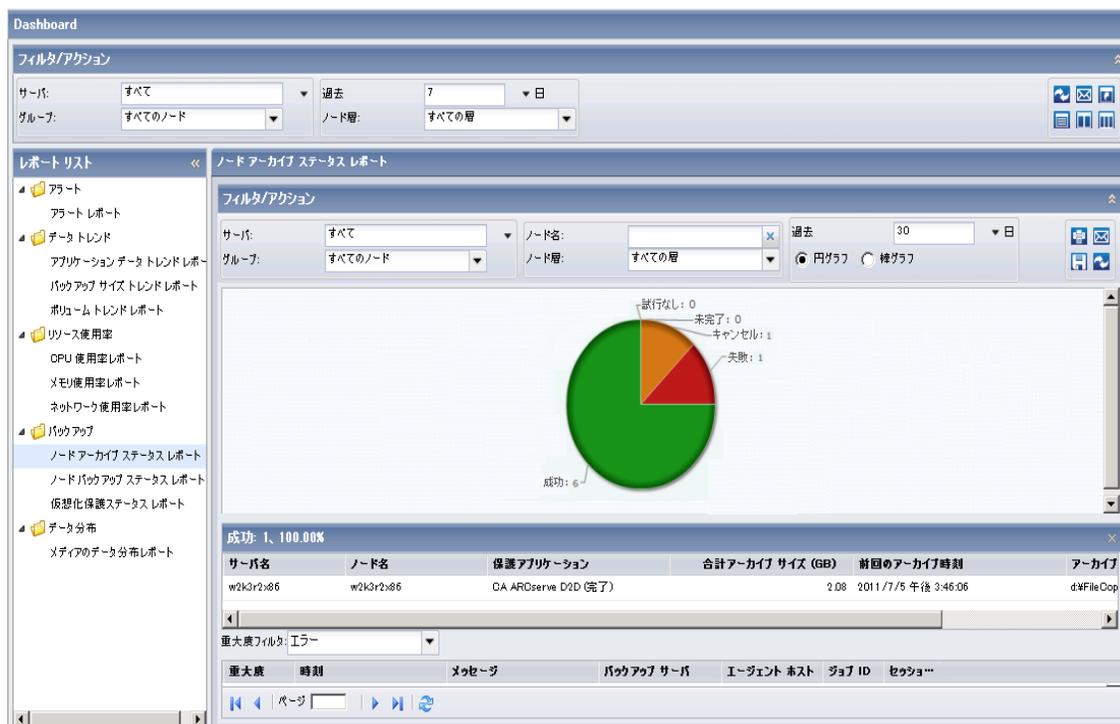
注: デフォルトでは、CA ARCserve Central Reporting は最大で 90 日間の情報のみを棒グラフに表示します。表示される日数を 90 日間よりも長くすると、棒グラフの情報が読みにくくなります。90 日以上レポート情報を表示するよう指定すると、棒グラフの表示は入力した日数に関わらず 90 日間に制限されます。この制限は同じレポートの円グラフビューには適用されません（円グラフの表示日数の最大は 999 日です）。



## ノードアーカイブ ステータスドリルダウンレポート

ノードアーカイブ ステータス レポートでは、円グラフ ビューまたは棒グラフ ビューをさらに展開してより詳細な情報を表示することができます。いずれのビューの任意のステータス カテゴリをクリックし、サマリ情報のレポートから、特定のカテゴリに重点を置いた詳細なレポートへとドリルダウンすることができます。

以下のサンプルには、ノードアーカイブ ステータス レポートの詳細情報が円グラフ ビューに含まれています。



以下のサンプルには、ノードアーカイブ ステータス レポートの詳細情報が棒グラフ ビューで含まれています。



ドリルダウン レポートには以下が含まれます。

- **サーバ名** -- 実行されたバックアップに基づいて、以下のサーバ名のうちの 1 つを表示します。
  - CA ARCserve Backup ノードについては、[サーバ名] フィールドには、ノードが保護される CA ARCserve Backup プライマリ サーバ、スタンドアロン サーバまたはセントラルプライマリ サーバ (Global Dashboard 用) の名前が表示されます。
  - CA ARCserve D2D ノードについては、[サーバ名] フィールドには、CA ARCserve D2D バックアップおよびファイルコピーが実行された CA ARCserve D2D ノードのホスト名が表示されます。
- **ノード名** -- エージェント ノードまたは CA ARCserve Backup メンバサーバの名前、CA ARCserve D2D ノードの名前を示します。
- **合計アーカイブ サイズ (GB)** -- 対応するノードのアーカイブまたはコピーされたデータの合計サイズを示します。
- **前回のアーカイブ時刻** -- 前回のアーカイブまたはファイルコピーの日時を示します。
- **アーカイブ場所** -- アーカイブまたはファイルコピーが存在するディレクションを示します。

**注:** 棒グラフビューでドリルダウンを実行すると、該当するステータスカテゴリのフィルタ済みノードリストが1日分表示されます。

次にこのレポートで個別のノードの名前をクリックすることでさらにドリルダウンし、そのノードに関連するすべてのログメッセージのリストを表示することができます。表示されるメッセージの重要度（エラーと警告、エラー、警告、情報、すべて）を指定してリストをフィルタすることもできます。

以下の点に注意してください。

- 各列名にドリルダウンし、昇順または降順で並べ替えることができます。また、画面上にどの列でも表示できます。すべての列はデフォルトで有効です。
- CA ARCserve Central Reporting では、ログメッセージを1ページに100件まで表示します。それ以上のメッセージを表示する場合は、[次のページ] ボタンをクリックします。
- このドリルダウンレポートから、一覧表示されているエラーまたは警告メッセージをクリックして関連するトラブルシューティングのヘルプトピックを対応する理由および修正アクションと共に表示することができます。

### ノードバックアップステータスレポート

ノードバックアップステータスレポートは、過去の指定日数の間にバックアップされたすべてのノードの最新のステータス結果をリストします。

### ノードバックアップステータスレポートの利点

ノードバックアップステータスレポートは、どのノードのバックアップジョブが他よりも効率的であるか、問題の可能性のある領域はどこかを分析し特定するのに役立ちます。

たとえば、通常、このレポートを使用して、ノードの観点から最新のバックアップジョブのステータスをチェックすることができます。前日からのバックアップステータスがすべて緑（成功）の場合、対応するノードが正常にバックアップされたことがわかります。しかし、バックアップステータスが赤（失敗）の場合、ドリルダウンレポートのアクティビティログをすぐに分析して問題の領域を特定し、遅延を最低限に抑えながら修正することができます。また、日々のノードステータスをモニタして、環境内のノードステータスジョブの動作傾向を見極めることもできます。

常に動作のパターンを探して問題の可能性のあるノードを特定し、同じノードが頻繁に失敗しているかどうかを判断します。問題のノードの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

**注:** ノードバックアップステータスレポートには CA ARCserve Backup、CA ARCserve D2D、および CA ARCserve Central Host-Based VM Backup によって実行された仮想マシンのバックアップが含まれます。

## ノード バックアップ ステータス レポート ビュー

ノード バックアップ ステータス レポートは円グラフまたは棒グラフとして表示することができます。

このレポートには、以下のフィルタが含まれます。

- **サーバ** -- CA ARCserve Central Protection Manager から追加された特定のノードを指定するか、または「すべて」を選択します。
- **グループ** -- CA ARCserve Backup と CA ARCserve Central Protection Manager のデフォルトおよびカスタム グループのアプリケーションタイプと名前を指定するか、または「すべて」を選択します。
- **ノード名** -- エージェント ノードまたは CA ARCserve Backup メンバサーバの名前、CA ARCserve D2D ノードの名前を示します。
  - CA ARCserve Central Host-Based VM Backup が保護する電源を投入した仮想マシンについては、レポート結果のこのフィールドには仮想マシンのホスト名が表示されます。
  - CA ARCserve Central Host-Based VM Backup が保護する電源が投入されていない仮想マシンについては、レポート結果のこのフィールドには「不明 (仮想マシン名)」と表示されます。
  - **注:** 「不明」という語で検索してこのレポートをフィルタすることはできません。ただし、[ノード名] フィルタを空白にすれば、ノード名を検索結果として表示させることができます。また、仮想マシンに電源を投入すれば検出されます。
- **ノード層** -- モニタするノードの層カテゴリを指定します。選択したノード層に基づいてすべてのレポートがフィルタされます。

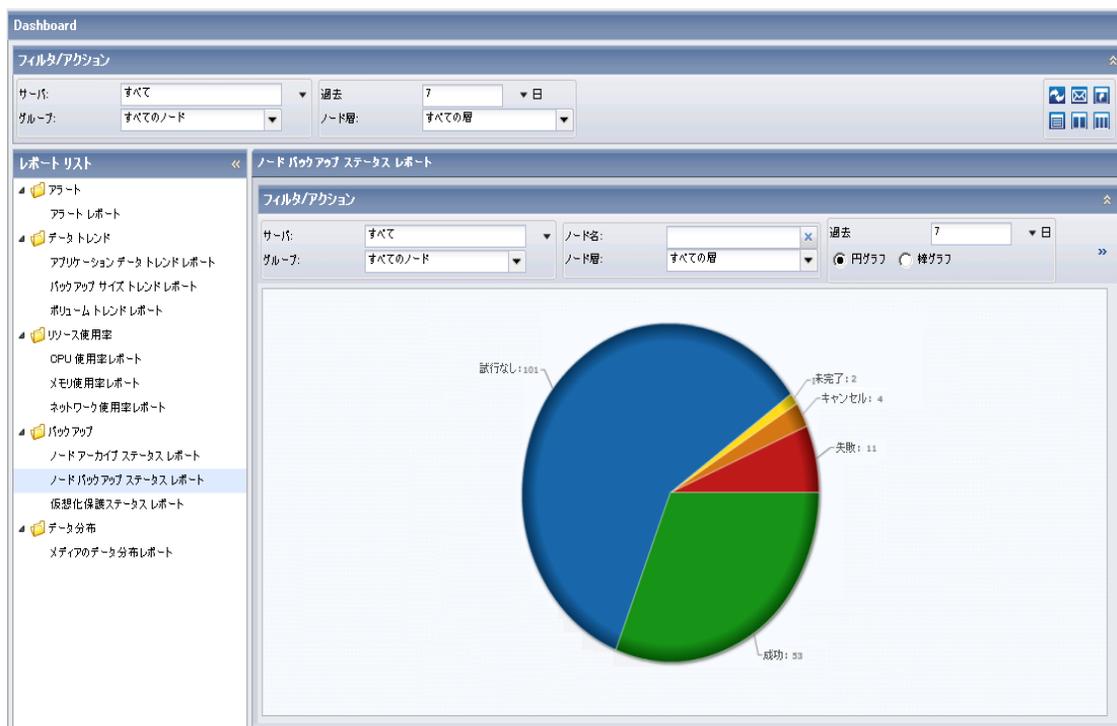
[ノード層] フィールドには、ドロップダウンメニューが含まれ、[高優先度]、[中優先度]、[低優先度] から選択できます。

**注:** CA ARCserve D2D ノードのノード層は [中優先度] です。
- **過去 (日数) 日間** -- 事前定義された最も一般的に使用されるデータ収集期間 (1、3、7 (デフォルト) および 30 日) を指定します。このフィールドには手動で値を入力することもできます。

**注:** デフォルトでは、CA ARCserve Backup はアクティビティ ログ情報を 14 日間のみ保存します。CA ARCserve Central Reporting で 14 日間以上のアクティビティ ログ情報を表示する場合、[古いアクティビティ ログ廃棄間隔] オプションを変更して、ログの保存期間を増加する必要があります。アクティビティ ログ設定の変更の詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。

## 円グラフ

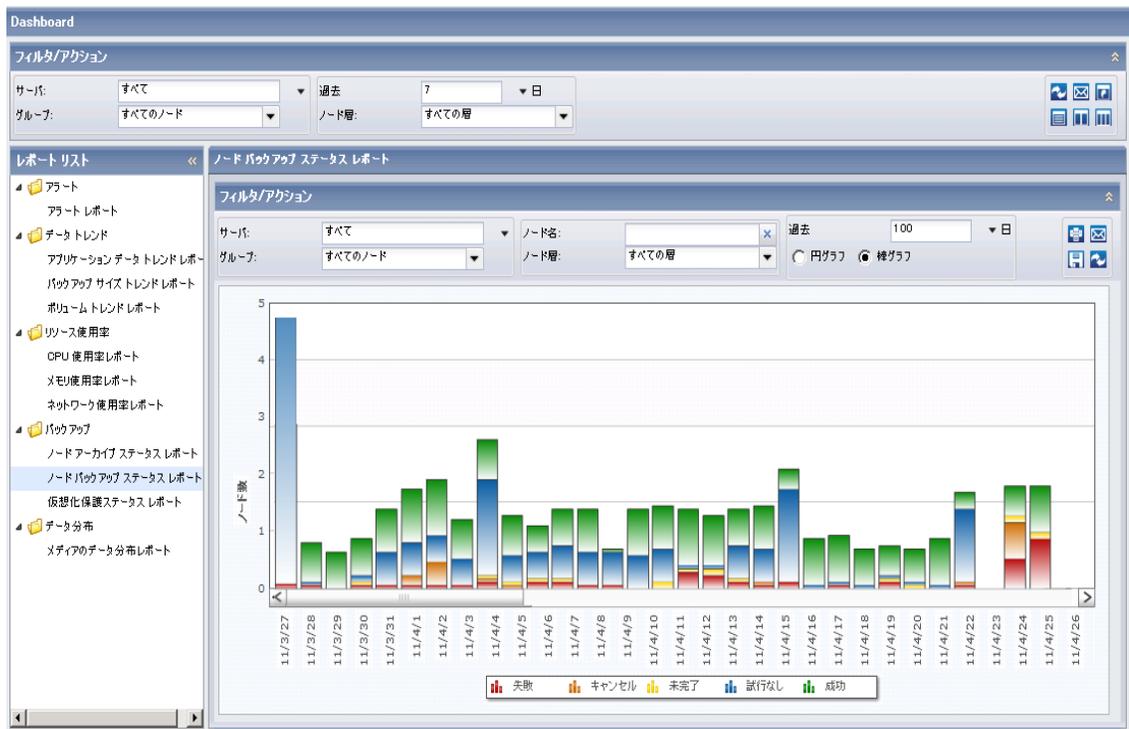
円グラフは指定した期間のすべての日にバックアップされたノードの高レベルの概要を提供します。円グラフに示されたステータス カテゴリは、過去の指定日数の間にバックアップされたノードの合計数の割合と各ノードの最新のステータスを示します。



## 棒グラフ

棒グラフは指定した期間の各日にバックアップされたノードのより詳細なレベルのビューを提供します。棒グラフに示されたステータス カテゴリは、過去の指定日数の間にバックアップされたノードの 日単位の数を示します。

**注:** デフォルトでは、CA ARCserve Central Reporting は最大 90 日間の棒グラフ情報のみを表示します。表示される日数を 90 日間よりも長くすると、棒グラフの情報が読みにくくなります。90 日以上レポート情報を表示するよう指定すると、棒グラフの表示は入力した日数に関わらず 90 日間に制限されます。この制限は同じレポートの円グラフ ビューには適用されません（円グラフの表示日数の最大は 999 日です）。



## ノードバックアップステータスドリルダウンレポート

ノードバックアップステータスレポートでは、円グラフまたは棒グラフビューをさらに展開して詳細な情報を表示することができます。いずれかのステータスカテゴリをクリックし、サマリ情報のレポートから、特定のカテゴリに重点を置いた詳細レポートにドリルダウンすることができます。

以下のサンプルには、ノードバックアップステータスレポートの詳細情報が円グラフビューに含まれています。

The screenshot displays the 'Node Backup Status Drill Down Report' in the CA ARCserve Central Reporting application. The interface is divided into several sections:

- Dashboard:** Shows filter and action options for the report.
- レポートリスト (Report List):** A sidebar menu with categories like 'アラート' (Alerts), 'データトレンド' (Data Trends), 'リソース使用率' (Resource Usage), 'バックアップ' (Backup), and 'データ分布' (Data Distribution). The 'バックアップ' category is expanded to show 'ノードバックアップステータスレポート' (Node Backup Status Report).
- ノードバックアップステータスレポート (Node Backup Status Report):** The main content area, featuring:
  - フィルタ/アクション (Filter/Action):** Controls for server, group, node, and time range, along with radio buttons for '円グラフ' (Pie Chart) and '棒グラフ' (Bar Chart).
  - 円グラフ (Pie Chart):** A 3D pie chart showing the distribution of backup statuses. The largest slice is blue, representing '成功' (Success).
  - 成功: 1、100.00% (Success: 1, 100.00%):** A summary line indicating the overall status.
  - Table:** A table with columns: 'サーバ名' (Server Name), 'ノード名' (Node Name), '保護アプリケーション' (Protection Application), '利用可能な暗号化され...' (Available Encryption...), '成功した最新の...' (Latest Successful...), '復旧ポイント数' (Recovery Point Count), and '最新の復旧ポイント' (Latest Recovery Point). The table shows one entry for server 'w2k3r2:86' with a successful backup of 'CA ARCserve D2D (完了)'.
  - 重大度フィルタ: エラー (Severity Filter: Error):** A dropdown menu.
  - Table Header:** A table with columns: '重大度' (Severity), '時刻' (Time), 'メッセージ' (Message), 'バックアップサーバ' (Backup Server), 'エージェントホスト' (Agent Host), 'Job Id', and 'セクショ...' (Section...).
  - ナビゲーション:** Buttons for back, forward, and refresh, along with a page number indicator.

以下のサンプルには、ノードバックアップステータスレポートの詳細情報が棒グラフビューで含まれています。



ドリルダウン レポートには以下が含まれます。

- **サーバ名** -- 実行されたバックアップに基づいて、以下のサーバ名のうちの 1 つを表示します。
  - CA ARCserve Backup ノードについては、[サーバ名] フィールドには、ノードが保護される CA ARCserve Backup プライマリ サーバ、スタンダアロン サーバまたはセントラルプライマリ サーバ (Global Dashboard 用) の名前が表示されます。
  - CA ARCserve D2D ノードについては、[サーバ名] フィールドには、CA ARCserve D2D バックアップおよびファイルコピーが実行された CA ARCserve D2D ノードのホスト名が表示されます。
  - CA ARCserve Central Host-Based VM Backup が保護する仮想マシンについては、[サーバ名] フィールドには、プロキシのホスト名が表示されます。
- **ノード名** -- エージェント ノードまたは CA ARCserve Backup メンバサーバの名前、CA ARCserve D2D ノードの名前を示します。
  - CA ARCserve Central Host-Based VM Backup が保護する電源を投入した仮想マシンについては、このフィールドには仮想マシンのホスト名が表示されます。
  - CA ARCserve Central Host-Based VM Backup が保護する電源が投入されていない仮想マシンについては、このフィールドには「不明 (仮想マシン名)」と表示されます。
- **アプリケーションによって保護済み** -- ノードを保護するアプリケーションの種類を示します。
- **利用可能な暗号化されたセッション** -- CA ARCserve D2D または CA ARCserve Backup セッションが暗号化されているかどうかを示します。
- **成功した最新の惨事復旧バックアップ** -- 対応するノードの成功した最新の惨事復旧バックアップ ステータスを示します。
- **データ ポイント数**

- 最新の復旧ポイント
- 前回のバックアップの種類 -- 前回実行されたバックアップジョブを示します。

次にこのレポートで個別のノードの名前をクリックすることでさらにドリルダウンし、そのノードに関連するすべてのログメッセージのリストを表示することができます。表示されるメッセージの重要度（エラーと警告、エラー、警告、情報、すべて）を指定してリストをフィルタすることもできます。

以下の点に注意してください。

- 各列名にドリルダウンし、昇順または降順で並べ替えることができます。また、画面上にどの列でも表示できます。すべての列はデフォルトで有効です。
- CA ARCserve Central Reporting では、ログメッセージを1ページに100件まで表示します。それ以上のメッセージを表示する場合は、[次のページ] ボタンをクリックします。
- このドリルダウンレポートから、一覧表示されているエラーまたは警告メッセージをクリックして関連するトラブルシューティングのヘルプトピックを対応する理由および修正アクションと共に表示することができます。

## 仮想化保護ステータスレポート

仮想化保護ステータスレポートには、VCB (VMware Consolidated Backup) テクノロジ、Microsoft Hyper-V、CA ARCserve Central Virtual Standby、または CA ARCserve Central Host-Based VM Backup を使用してバックアップした各仮想マシン (VM) の最新の保護ステータスが表示されます。

## 仮想化保護ステータスレポートの利点

仮想化保護ステータス レポートは、どの仮想マシン (VM) のバックアップジョブが他よりも効率的であるか、問題の可能性のある領域はどこかを分析し特定するのに役立ちます。

たとえば、通常、このレポートを使用して、VM の最新のバックアップのステータスをチェックすることができます。前日からのバックアップステータスがすべて緑 (成功) の場合、正常にバックアップされたことがわかります。しかし、バックアップステータスが赤 (失敗) の場合、この VM のノードバックアップステータス レポートのドリルダウン レポートにあるアクティビティ ログと結果を相互に比較して、問題の領域を特定し、遅延なく修正することができます。また、成功した VM バックアップの場合には、各 VM で利用可能な復旧の種類 (raw、ファイル、またはその両方) を特定できます。

常に動作のパターンを探して問題の可能性のあるジョブを特定し、同じジョブが頻繁に失敗しているかどうかを判断します。問題のバックアップジョブの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

## 仮想化保護ステータスレポートビュー

仮想化保護ステータス レポートは、円グラフで表示され、仮想マシンステータスの詳細を表示するためにドリルダウンすることができます。

このレポートには、以下のフィルタが含まれます。

- **サーバ** -- CA ARCserve Central Protection Manager から追加された特定のノードを指定するか、または「すべて」を選択します。
- **グループ** -- CA ARCserve Backup と CA ARCserve Central Protection Manager のデフォルトおよびカスタム グループのアプリケーションタイプと名前を指定するか、または「すべて」を選択します。
- **ノード名** -- エージェント ノードまたは CA ARCserve Backup メンバサーバの名前、CA ARCserve D2D ノードの名前を示します。

- CA ARCserve Central Host-Based VM Backup が保護する電源を投入した仮想マシンについては、レポート結果のこのフィールドには仮想マシンのホスト名が表示されます。
- CA ARCserve Central Host-Based VM Backup が保護する電源が投入されていない仮想マシンについては、レポート結果のこのフィールドには「不明 (仮想マシン名)」と表示されます。

注: 「不明」という語で検索してこのレポートをフィルタすることはできません。ただし、[ノード名] フィルタを空白にすれば、ノード名を検索結果として表示させることができます。また、仮想マシンに電源を投入すれば検出されます。

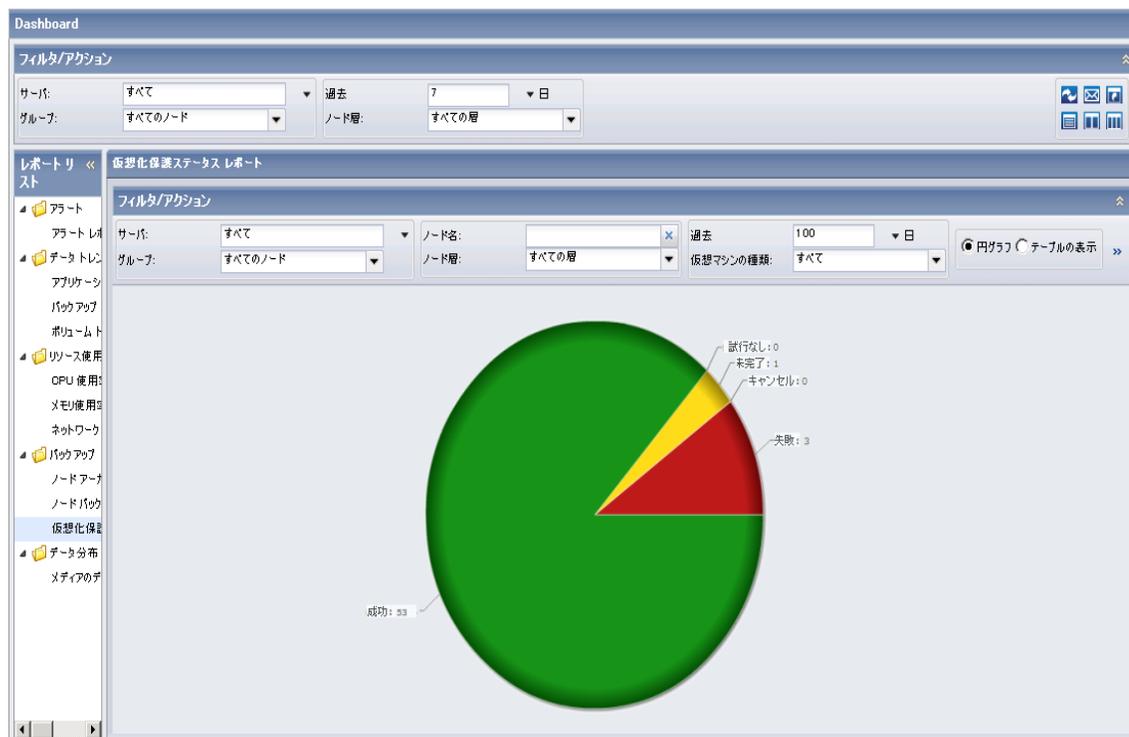
- **ノード層** -- モニタするノードの層カテゴリを指定します。選択したノード層に基づいてすべてのレポートがフィルタされます。

[ノード層] フィールドには、ドロップダウンメニューが含まれ、[高優先度]、[中優先度]、[低優先度] から選択できます。

注: CA ARCserve D2D ノードのノード層は [中優先度] です。

- **過去 (日数) 日間** -- 事前定義された最も一般的に使用されるデータ収集期間 (1、3、7 (デフォルト) および 30 日) を指定します。このフィールドには手動で値を入力することもできます。
- **仮想マシンの種類** -- 最新のバックアップステータスを参照するノードの仮想マシンの種類を指定します。

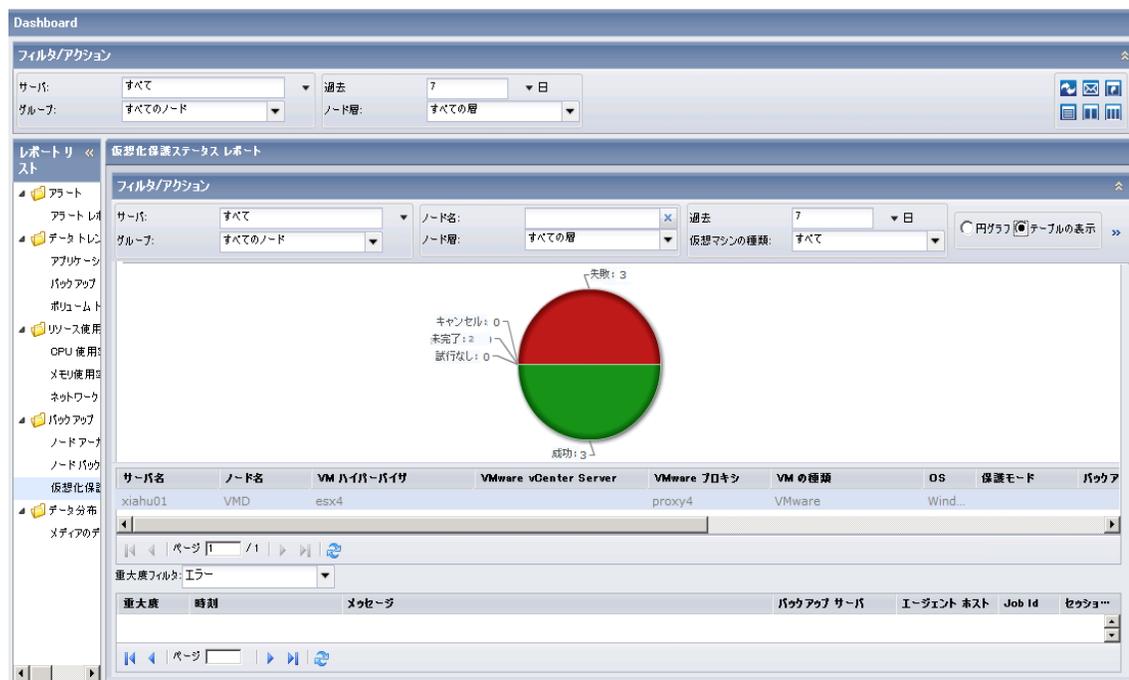
円グラフは、成功、未完了、失敗、キャンセル、試行なし、などのセクタに分類されます。各セクタは、モニタされている特定の仮想マシンの割合を表します。各セクタの詳細については、「[仮想化保護ステータスドリルダウンレポート \(P. 90\)](#)」を参照してください。



## 仮想化保護ステータスドリルダウンレポート

仮想化保護ステータス レポートは、円グラフ ビューまたはテーブルの表示ビューからさらに展開し、選択したカテゴリによってフィルタされたドリルダウン レポートを表示することができます。

以下のサンプルには、仮想化保護ステータス レポートの詳細情報が円グラフ ビューで含まれています。



以下のサンプルには、仮想化保護ステータス レポートの詳細情報がテーブルビューで含まれています。

The screenshot displays the '仮想化保護ステータス レポート' (Virtualization Protection Status Report) in a table view. The interface includes a dashboard header with filter/action menus, a report list on the left, and a main table with columns for server name, node name, VM hypervisor, VMware vCenter Server, VMware Proxy, VM type, OS, and protection mode. Below the table is a log section with columns for severity, time, message, backup agent, host, job ID, and action.

サーバー名	ノード名	VM ハイパーバイザ	VMware vCenter Server	VMware プロキシ	VM の種類	OS	保護モード	バク
xiahu01	VMD	esx4		proxy4	VMware	Wind...		
xiahu01	VMDJ	esx5		proxy5	VMware	Wind...		
xiahu01	Xia	esx6		proxy6	VMware	Wind...		
xiahu01	xiahu0	hyper-v3		hyper-v3	Hyper-V	Wind...		
xiahu01	xiahu0	hyper-v4		hyper-v4	Hyper-V	Wind...		
xiahu01	Xiah	esx7	vc3	proxy7	VMware	Wind...		

重大度	時刻	メッセージ	バックアップ サーバ	エージェント ホスト	Job Id	セクショ...
!	2011/6/7 7:38:38	W3825		ULLINMEMT	VMD	
✖	2011/6/7 7:38:38	W3834		ULLINMEMT	VMD	
✖	2011/6/7 7:38:38	W3701		ULLINMEMT	VMD	

ドリルダウン レポートには、実行されたバックアップ ジョブの種類に基づいて、各列に以下の情報が含まれます。

注: 実行されたバックアップ ジョブの種類 of データを取得するには、以下の手順に従います。

- **CA ARCserve Backup Agent for Virtual Machines** -- CA ARCserve Backup プライマリ サーバを CA ARCserve Central Protection Manager に追加し、CA ARCserve Backup 同期を実行します。
- **CA ARCserve Central Host-Based VM Backup** -- プロキシサーバを CA ARCserve Central Protection Manager に追加し、CA ARCserve D2D 同期を実行します。
- **CA ARCserve Central Virtual Standby** -- CA ARCserve Central Protection Manager に CA ARCserve D2D ノードを追加し、CA ARCserve D2D 同期を実行します。

列名	CA ARCserve Backup Agent for Virtual Machines	CA ARCserve Central Host-Based VM Backup	CA ARCserve Central Virtual Standby
サーバ名	<CA ARCserve Backup プライマリ サーバのホスト名>	<プロキシ ホスト名>	<ソース ホスト名>
ノード名	<仮想マシンのホスト名>	<仮想マシンのホスト名> (電源オン仮想マシン)	<ソース ホスト名>
仮想マシンハイパーバイザ	<Hyper-V サーバの仮想マシン名> (Hyper-V 経由) <ESX サーバの仮想マシン名> (ESX/ESXi 経由) <ESX サーバの仮想マシン名> (vCenter 経由)	<ESX サーバの仮想マシン名> (vCenter 経由) <ESX サーバの仮想マシン名> (ESX/ESXi 経由)	<ESX サーバの仮想マシン名> (vCenter 経由) <ESX サーバの仮想マシン名> (ESX 経由) <Hyper-V サーバの仮想マシン名> (Hyper-V 経由)
VMware vCenter Server	<ユーザによって提供される vCenter サーバの仮想マシン名>	<ユーザによって提供される vCenter サーバの仮想マシン名>	<ユーザによって提供される vCenter サーバの仮想マシン名>
VMware プロキシ	<プロキシ ホスト名>	<プロキシ ホスト名>	<モニタ ホスト名> 注: <モニタ ホスト名> は、データ転送用のプロキシとして使用される場合にのみ表示されます。
仮想マシンの種類	'VMware' または 'Hyper-V'	'VMware'	'VMware' または 'Hyper-V'
オペレーティングシステム	'Windows' または 'Linux'	'Windows'	'Windows'
保護モード	'raw' または 'ファイル' (バックアップの種類による)	'CA ARCserve Central Host-Based VM Backup'	'CA ARCserve Central Virtual Standby'

列名	CA ARCserve Backup Agent for Virtual Machines	CA ARCserve Central Host-Based VM Backup	CA ARCserve Central Virtual Standby
バックアップの種類	'CA ARCserve Backup Agent for Virtual Machines'	'CA ARCserve Central Host-Based VM Backup'	'VMware 上の CA ARCserve Central Virtual Standby' または 'Hyper-V 上の CA ARCserve Central Virtual Standby'
前回のバックアップ時刻	<前回のバックアップの時刻>	<前回のバックアップの時刻>	<前回の変換の時刻>
復旧の種類	'raw' または 'ファイル' (バックアップの種類による)	'VM/ファイル/App' (電源オン仮想マシン) または 'VM' (電源オフ仮想マシン)	'VM 電源オン' (電源オン仮想マシン) または 'V2P' (仮想から物理)
最新の復旧ポイント	<最新の復旧ポイントの時刻>	<最新の復旧ポイントの時刻>	<最新の変換の時刻>
前回のバックアップステータス	'成功'、'失敗' または 'キャンセル'	'成功'、'失敗' または 'キャンセル'	'成功'、'失敗' または 'キャンセル'

各フィールドの説明は以下のとおりです。

- **サーバ名** -- 実行されたバックアップに基づいて、以下のサーバ名のうちの 1 つを表示します。
  - CA ARCserve Backup ノードについては、[サーバ名] フィールドには、ノードが保護される CA ARCserve Backup プライマリ サーバ、スタンドアロンサーバまたはセントラルプライマリサーバ (Global Dashboard 用) の名前が表示されます。
  - CA ARCserve D2D ノードについては、[サーバ名] フィールドには、CA ARCserve D2D バックアップおよびファイルコピーが実行された CA ARCserve D2D ノードのホスト名が表示されます。
  - CA ARCserve Central Host-Based VM Backup が保護する仮想マシンについては、[サーバ名] フィールドには、プロキシのホスト名が表示されます。

- **ノード名** -- エージェント ノードまたは CA ARCserve Backup メンバサーバの名前、CA ARCserve D2D ノードの名前を示します。
  - CA ARCserve Central Host-Based VM Backup が保護する電源を投入した仮想マシンについては、このフィールドには仮想マシンのホスト名が表示されます。
  - CA ARCserve Central Host-Based VM Backup が保護する電源が投入されていない仮想マシンについては、このフィールドには「不明（仮想マシン名）」と表示されます。
- **仮想マシンハイパーバイザ** -- ESX または Hyper-V にかかわらず、仮想マシンをホストしているサーバの種類を示します。
- **VMware vCenter Server** -- 特定のノードに使用される VMware vCenter の名前を示します。

注: VMware vCenter Server によって、別の ESX サーバから単一のコンソールアプリケーションを通じて複数の ESX サーバおよび仮想マシン (VM) を管理できるようになります。
- **VMware プロキシ** -- 特定の仮想マシン用の VMware プロキシの名前を示します。
- **仮想マシンの種類** -- モニタされている仮想マシンの種類を示します。仮想マシンの種類は Hyper-V または VMware です。
- **OS** -- オペレーティング システムの種類を示します。
- **保護モード** -- 仮想マシンの保護モードの種類を示します。保護モードは、raw、ファイル、Host Based VM Backup、または仮想スタンバイ (マシン) です。
- **バックアップの種類** -- ノードの保護の種類を示します。
- **前回のバックアップ時刻** -- 前回のバックアップの日時を示します。
- **復旧の種類** -- 復旧の種類を示します。復旧の種類には、raw、ファイル、VM/ファイル/App、VM、V2P 電源オン (V2P: Virtual-to-Physical) があります。
- **最新の復旧ポイント** -- 仮想マシンの最新の復旧ポイントの日時を示します。
- **前回のバックアップステータス** -- 前回の仮想マシン バックアップのステータスを示します。

次にこのレポートで個別のノードの名前をクリックすることでさらにドリルダウンし、そのノードに関連するすべてのログメッセージのリストを表示することができます。表示されるメッセージの重要度（エラーと警告、エラー、警告、情報、すべて）を指定してリストをフィルタすることもできます。

以下の点に注意してください。

- 各列名にドリルダウンし、昇順または降順で並べ替えることができます。また、画面上にどの列でも表示できます。すべての列はデフォルトで有効です。
- CA ARCserve Central Reporting では、ログメッセージを 1 ページに 100 件まで表示します。それ以上のメッセージを表示する場合は、[次のページ] ボタンをクリックします。
- このドリルダウン レポートから、一覧表示されているエラーまたは警告メッセージをクリックして関連するトラブルシューティングのヘルプトピックを対応する理由および修正アクションと共に表示することができます。

## メディアのデータ分布レポート

メディアのデータ分布レポートには、過去の指定日数の間にファイルシステム デバイス メディアにバックアップされたデータの量と分布が表示されます。このレポートでは、さらに raw データ サイズと圧縮データ サイズの比較 (GB) が表示されます。

### メディアのデータ分布レポートの利点

メディアのデータ分布レポートは、CA ARCserve Backup ドメインおよび CA ARCserve D2D サーバ内のすべてのサーバを分析して、データが各種バックアップ メディアにどのように分布しているかを把握するのに役立ちます。このレポートによって、バックアップ中に圧縮によって節約できる容量（バックアップ サイズ）を把握することができます。この情報を得ることで、バックアップ サイズの節約が、バックアップに必要なリソースの節約にどうつながるかを容易かつ迅速に判断できます。

## メディアのデータ分布レポートビュー

メディアのデータ分布レポートは、棒グラフ形式で表示され、過去の指定日数において、CA ARCserve Backup ドメインおよび CA ARCserve D2D サーバ内で以下のデバイスに分布しているバックアップデータの量 (GB) を表します。

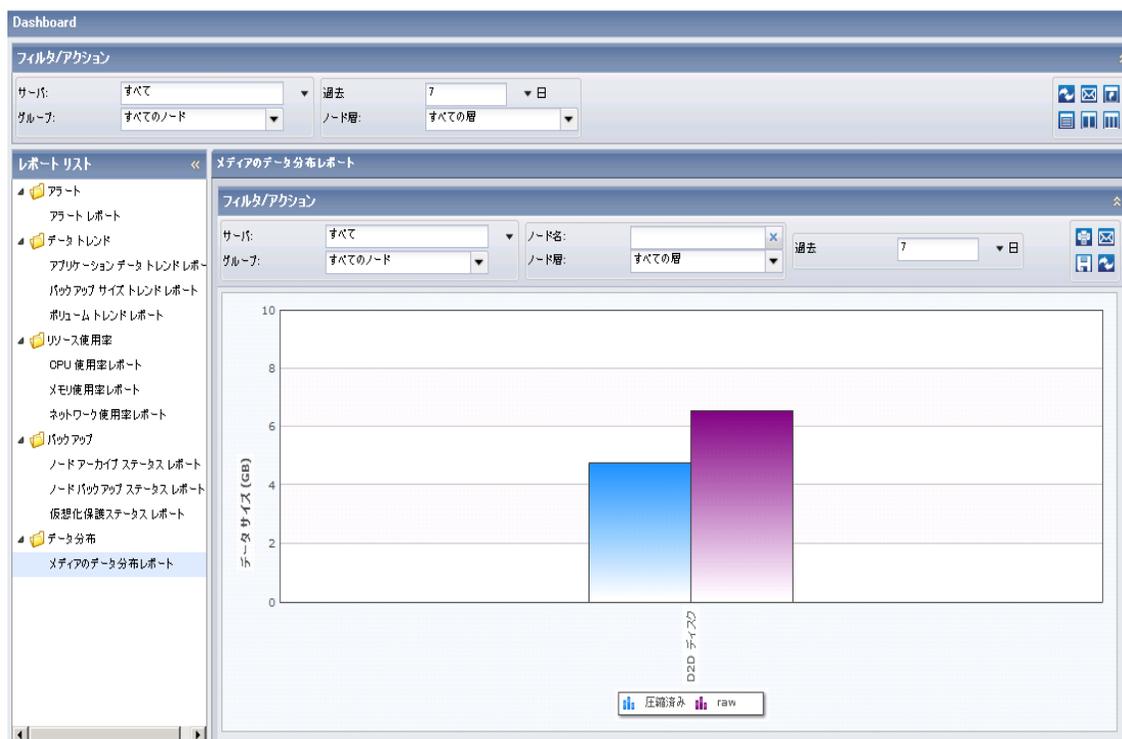
- ファイルシステム デバイス
- デデュプリケーション
- テープ
- クラウド
- D2D ディスク

それぞれのデバイスは、2つのカテゴリに分類され、「圧縮済みデータ サイズ」および「raw データ サイズ」が比較されます。

レポートには、以下のフィルタが含まれます。

- **サーバ** -- CA ARCserve Central Protection Manager から追加された特定のノードを指定するか、または「すべて」を選択します。
- **グループ** -- CA ARCserve Backup と CA ARCserve Central Protection Manager のデフォルトおよびカスタム グループのアプリケーションタイプと名前を指定するか、または「すべて」を選択します。
- **ノード名** -- エージェント ノードまたは CA ARCserve Backup メンバサーバの名前、CA ARCserve D2D ノードの名前を指定します。

- **ノード層** -- モニタするノードの層カテゴリを指定します。選択したノード層に基づいてすべてのレポートがフィルタされます。  
[ノード層]フィールドには、ドロップダウンメニューが含まれ、[高優先度]、[中優先度]、[低優先度] から選択できます。  
注: CA ARCserve D2D ノードのノード層は [中優先度] です。
- **過去 (日数) 日間** -- 事前定義された最も一般的に使用されるデータ収集期間 (1, 3, 7 (デフォルト) および 30 日) を指定します。このフィールドには手動で値を入力することもできます。



## メディアのデータ分布ドリルダウンレポート

メディアのデータ分布レポートは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。デバイスをクリックして、「圧縮済みデータ サイズ」または「raw データ サイズ」の 2 つのサイズの比較を表示できます。

以下のサンプルには、メディアのデータ分布レポートの詳細情報が含まれています。



このドリルダウン レポートには以下のデータが含まれます。

- **サーバ名** -- 実行されたバックアップに基づいて、以下のサーバ名のうちの 1 つを表示します。
  - CA ARCserve Backup ノードについては、[サーバ名] フィールドには、ノードが保護される CA ARCserve Backup プライマリ サーバ、スタンドアロン サーバまたはセントラルプライマリ サーバ (Global Dashboard 用) の名前が表示されます。
  - CA ARCserve D2D ノードについては、[サーバ名] フィールドには、CA ARCserve D2D バックアップおよびファイルコピーが実行された CA ARCserve D2D ノードのホスト名が表示されます。
- **ノード名** -- エージェント ノードまたは CA ARCserve Backup メンバサーバの名前、CA ARCserve D2D ノードの名前を示します。
- **デバイス名** -- 棒グラフから選択されたデバイスの名前を示します。
- **圧縮済み (GB)** -- デバイスの圧縮されたデータ サイズを示します。
- **raw (GB)** -- デバイスの圧縮されていない raw データ サイズを示します。

**注:** 各列名にドリルダウンし、昇順または降順で並べ替えることができます。また、画面上にどの列でも表示できます。すべての列はデフォルトで有効です。

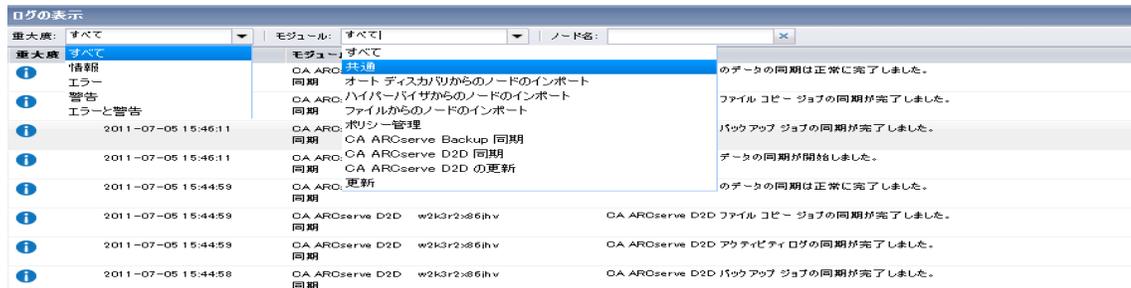
## CA ARCserve Central Reporting ログの表示

ログには、アプリケーションによって実行されたすべての処理の包括的な情報が記録されます。このログは、実行されたすべてのジョブの監査記録になります（最も最近のアクティビティがリストの最初に表示されます）。発生した問題をトラブルシューティングする際に役立ちます。

### CA ARCserve Central Reporting ログを表示する方法

1. ホーム画面から、ナビゲーションバーの [ログの表示] をクリックします。

[ログの表示] 画面が表示されます。



2. ドロップダウン リストから、表示するログ情報を指定します。
  - **重大度** -- 表示するログの重大度を指定します。以下の重大度オプションを指定できます。
    - **すべて** -- 重大度にかかわらず、すべてのログを表示します。
    - **情報** -- 一般的な情報を説明するログのみを表示します。
    - **エラー** -- 発生したエラーを説明するログのみを表示します。
    - **警告** -- 発生した警告を説明するログのみを表示します。
    - **エラーと警告** -- 発生したエラーおよび警告のみを表示します。
  - **モジュール** -- ログを表示するモジュールを指定します。以下のモジュールオプションを指定できます。
    - **すべて** -- すべてのアプリケーション コンポーネントに関するログを表示します。
    - **共通** -- 共通のプロセスに関するログを表示します。
    - **電子メール** -- 送信および受信された電子メールのログのみを表示します。

- 電子メール スケジューラ -- スケジュールされた電子メールのログのみを表示します。
- 更新 -- アプリケーションの更新に関するログのみを表示します。
- ノード名 -- 特定のノードのログのみを表示します。

**注:** このフィールドではワイルドカード ('\*' および '?') がサポートされます。たとえば、「lod\*」と入力すると、「lod」で始まるマシン名のすべてのアクティビティ ログが返されます。

**注:** 重大度、モジュール、ノード名のオプションはまとめて適用できます。たとえば、「ノード X」（ノード名）の「更新」（モジュール）に関連する「エラー」（重大度）を表示するよう指定できます。

[更新] ボタンをクリックします。 

指定された表示オプションに基づいてログが表示されます。

**注:** ログに表記される時刻は、CA ARCserve Central Protection Manager アプリケーションがある場所の現在のタイムゾーンに従います。

## ナビゲーションバーへのリンクの追加

CA ARCserve Central Applications には、ナビゲーションバーに [新しいタブの追加] リンクがあります。管理する Web ベース アプリケーションを追加した場合などは、この機能を使用してナビゲーションバーにエントリーを追加できます。ただし、インストールされたすべてのアプリケーションについては、ナビゲーションバーに新しいリンクが自動的に追加されます。たとえば、CA ARCserve Central Reporting および CA ARCserve Central Virtual Standby をコンピュータ A にインストールし、CA ARCserve Central Reporting を起動した場合、CA ARCserve Central Virtual Standby が自動的にナビゲーションバーに追加されます。

**注:** 他の CA ARCserve Central Applications が同じコンピュータ上にある場合のみ、インストールされたすべてのアプリケーションが検出されます。

### 次の手順に従ってください:

1. アプリケーションのナビゲーションバーで [新しいタブの追加] リンクをクリックします。
2. 追加するアプリケーションまたは Web サイトの名前および URL を指定します。たとえば [www.google.com](http://www.google.com) などです。  
必要に応じてアイコンの場所を指定します。
3. [OK] をクリックします。  
新しいタブはナビゲーションバーの下部に追加されます。

### 以下の点に注意してください。

- CA サポート リンクは、ユーザの便宜のためにデフォルトで追加されています。

新しいタグを削除するには、タブをハイライトして [削除] リンクをクリックします。

## レポートタスク

CA ARCserve Central Reporting では、ユーザに有益なレポートタスクが提供されます。たとえば、スケジュールに基づいて複数のレポートを電子メールで送信する、複数のレポートを一度に表示する、選択したレポートのデータをスプレッドシートで使用するために CSV ファイルでエクスポートする、などのタスクが可能です。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[電子メールによるレポートのスケジュール](#) (P. 103)

[電子メールによる個別レポートの送信](#) (P. 105)

[複数のレポートを一度に表示](#) (P. 106)

[CSV ファイルとしてのレポートの保存](#) (P. 109)

### 電子メールによるレポートのスケジュール

CA ARCserve Central Reporting では、指定された受信者に対してレポートを電子メールで送信するためのスケジュールを作成できます。レポートメールは、スケジュール設定したとおりに自動的に更新、生成、送信されます。レポート電子メールメッセージのスケジュールをカスタマイズできます。本アプリケーションによって、電子メールの内容、添付するレポート、レポートの送信先、およびレポート送信日時を定義できます。選択したレポートは、電子メール内で詳細情報をテーブル形式で表示します。

**注:** 電子メールを送信する前に、電子メールの設定を行う必要があります。詳細については、「[電子メール設定の環境設定](#)」(P. 27)を参照してください。

**次の手順に従ってください:**

1. CA ARCserve Central Reporting サーバにログインします。  
ナビゲーションバー上で [ダッシュボード] をクリックして、 [ダッシュボード] 画面を開きます。
2. グローバルの [フィルタ/アクション] セクションの右上隅にある電子メールアイコンをクリックして、 [電子メールのスケジュール] ダイアログボックスを開きます。
3. [電子メールのスケジュール] ダイアログボックスで [新規] をクリックして、 [新規スケジュール] ダイアログボックスを開きます。  
以下のタブが表示されます。
  - **全般** -- 新規スケジュールの名前および説明（オプション）を指定します。
  - **電子メール** -- 電子メール スケジュール用のメール設定およびコンテンツを指定します。
  - **レポート** -- 電子メールに含める特定のレポートを選択します。
  - **スケジュール** -- 電子メールのスケジュールを指定します。
4. 各タブの必須フィールドに入力します。
5. [OK] ボタンをクリックして、変更内容を保存します。

## 電子メールによる個別レポートの送信

CA ARCserve Central Reporting では、特定の受信者に対して個別にレポートを送信することができます。レポートを電子メールで送信する場合、内容は印刷された場合と同じになり、すべてのグラフは埋め込みイメージとして送信されます。

### 電子メールで個別レポートを送信する方法

1. CA ARCserve Central Reporting サーバにログインし、ナビゲーションバーの [Dashboard] をクリックします。  
[Dashboard] 画面が表示されます。
2. 電子メールで送信するレポートを [レポートリスト] から選択します。  
選択したレポートはレポート ビューに表示されます。
3. [フィルタ/アクション] セクションの右上にある電子メールアイコンをクリックします。

[レポートを電子メールで送信] ダイアログボックスが開きます。

レポートを電子メールで送信

宛先: Default6@ca.com

CC:

複数の電子メール受信者はセミコロンで区切ります。

優先度:  高  通常  低

件名: アプリケーション データトレンド レポート

コメント:

コメントは、全レポートの前、電子メールの始めの部分に挿入されます。

OK キャンセル ヘルプ

4. 以下のフィールドに入力します。
  - 宛先 -- 電子メールが送信される受信者を指定します。  
注: このフィールドは、電子メール環境設定モジュールで指定された電子メールアドレスがデフォルトになります。

- **CC** -- レポートを電子メールで送信する他の受信者を指定します（複数の場合はセミコロンで区切る）。
  - **優先度** -- 電子メールの優先度を指定します。このフィールドのデフォルトは [通常] です。
  - **件名** -- 電子メールの件名を入力します。このフィールドはデフォルトで選択したレポートになります。
  - **コメント** (オプション)
5. [OK] をクリックします。

電子メールが送信されます。

### 複数のレポートを一度に表示

CA ARCserve Central Reporting では、複数のレポートをレポート ビュー画面で 3 列で表示することができます。[Dashboard] 画面のグローバルの [フィルタ/アクション] セクションの右上に選択可能な 3 つのアイコンがあります。

-  レポート ビューには、1 つのレポートのみ表示されます  
レポート ビュー画面に 1 つのレポートのみを表示します。

- 
 レポートビューには、複数のレポートが2列で表示されます  
 レポートビューで2列で表示できるレポートを必要な数だけ選択します。選択したレポートを表示するためにスクロールできます。



-  レポート ビューには、複数のレポートが3列で表示されます。レポート ビューで3列で表示できるレポートを必要な数だけ選択します。選択したレポートを表示するためにスクロールできます。



## CSV ファイルとしてのレポートの保存

CA ARCserve Central Reporting では、レポート用に収集されたデータを、スプレッドシートで使用するために CSV ファイルとしてエクスポートする機能が提供されます。このレポートを、印刷したり、電子メールで送信したりすることもできます。

### レポートを CSV ファイルとして保存する方法

1. CA ARCserve Central Reporting サーバにログインし、ナビゲーションバーの [Dashboard] をクリックします。  
[Dashboard] 画面が表示されます。
2. 保存するレポートを [レポートリスト] から選択します。  
選択したレポートはレポートビューに表示されます。
3. [フィルタ/アクション] セクションの右上にある保存アイコン  をクリックします。  
[ファイルのダウンロード] ダイアログボックスが開きます。
4. [開く] をクリックしてファイルを開きます。  
ファイルが Excel で開きます。
5. ファイルを確認して保存します。

データは CSV ファイルとして保存され、印刷または電子メールでの送信が可能です。

## サーバの通信プロトコルの変更

デフォルトでは、CA ARCserve Central Applications は、すべてのコンポーネント間の通信に Hypertext Transfer Protocol (HTTP) を使用します。コンポーネント間でやり取りされるパスワードのセキュリティを強化したい場合は、使用するプロトコルを Hypertext Transfer Protocol Secure (HTTPS) に変更することもできます。それほどレベルのセキュリティが必要でない場合は、使用するプロトコルを簡単に HTTP に戻すことができます。

### 次の手順に従ってください:

1. 管理者アカウントまたは管理者権限のあるアカウントを使用して、アプリケーションがインストールされているコンピュータにログインします。

**注:** 管理者アカウントまたは管理者権限を持つアカウントを使用してログインしない場合、コマンドラインが [管理者として実行] 権限で実行されるよう設定します。

2. Windows のコマンドラインを開きます。

3. 以下のいずれかを行います。

■ プロトコルを HTTP から HTTPS に変更：

以下のデフォルトの場所から `changeToHttps.bat` ユーティリティツールを起動します（BIN フォルダの場所は、アプリケーションをインストールした場所に応じて異なります）。

```
C:¥Program Files¥CA¥ARCserve Central Applications¥BIN
```

プロトコルが正常に変更されると、以下のようなメッセージが表示されます。

通信プロトコルは HTTPS に変更されました。

■ プロトコルを HTTPS から HTTP に変更：

以下のデフォルトの場所から `changeToHttp.bat` ユーティリティツールを起動します（BIN フォルダの場所は、アプリケーションをインストールした場所に応じて異なります）。

```
C:¥Program Files¥CA¥ARCserve Central Applications¥BIN
```

プロトコルが正常に変更されると、以下のようなメッセージが表示されます。

通信プロトコルは HTTP に変更されました。

4. ブラウザを再起動し、CA ARCserve Central Applications に再接続します。

**注：**プロトコルを HTTPS に変更した場合、Web ブラウザに警告が表示されます。この動作は、自己署名されたセキュリティ証明書が原因で発生します。警告を無視して続行するか、その証明書をブラウザに追加して今後同じ警告が発生しないようにします。



# 第 5 章: CA ARCserve Central Reporting の トラブルシューティング

---

このセクションでは、CA ARCserve Central Reporting の使用中に発生する可能性がある問題について、問題の特定と解決に役立つトラブルシューティング情報を提供します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[レポートが Internet Explorer で表示されない \(P. 114\)](#)

[ページのロード問題のトラブルシューティング方法 \(P. 117\)](#)

[CA ARCserve Central Applications にアクセスすると、文字化けがブラウザウィンドウ内に表示される \(P. 118\)](#)

[アプリケーションへのログイン時に証明書エラーが表示される \(P. 119\)](#)

[ノード名を変更した後にノードがレポートに表示されない \(P. 121\)](#)

[Microsoft Excel に CSV 形式でデータをエクスポートすると不明瞭なコンテンツが表示される \(P. 121\)](#)

[CA ARCserve Central Protection Manager に正常に接続した後に環境設定エラーメッセージが表示される \(P. 122\)](#)

[Internet Explorer 8、9、Chrome で追加した新しいタブのリンクが正常に起動しない \(P. 122\)](#)

[Internet Explorer 8 および 9 で、新しいタブの追加リンク、RSS フィード、およびソーシャルネットワーキングフィードバックが正常に起動しない \(P. 126\)](#)

## レポートが Internet Explorer で表示されない

### Windows Server 2008 および Windows Server 2003 OS で有効

#### 症状:

Internet Explorer を使用して CA ARCserve Central Applications Web サイトを開くか、CA ARCserve Central Reporting レポートを表示すると、空の Web ページが表示されるか、または Javascript エラーが発生します。この問題は、Windows Server 2008 および Windows Server 2003 のオペレーティングシステム上で Internet Explorer を使用した場合に発生します。

この問題は以下の状況で発生します。

- レポートを表示するために Internet Explorer 8 または Internet Explorer 9 を使用しているが、ブラウザでこの URL を信頼済みサイトと認識しません。
- レポートを表示するために Internet Explorer 9 を使用しているが、使用されている通信プロトコルが HTTPS です。

#### 解決方法:

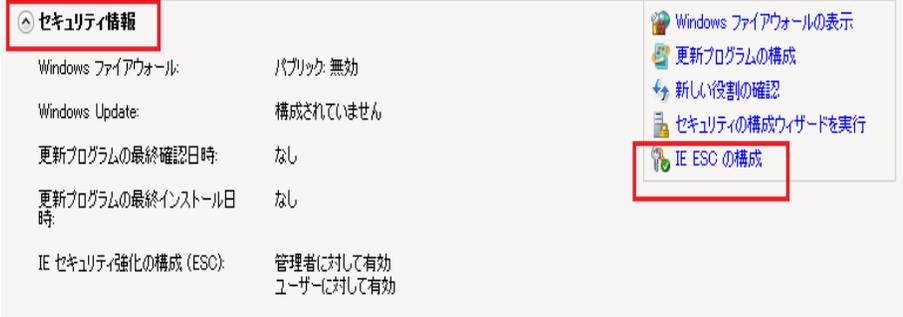
この問題を修正するには、レポートの表示に使用しているコンピュータ上の Internet Explorer のセキュリティ強化の構成を無効にします。

#### Windows Server 2008 システム上で Internet Explorer セキュリティ強化の構成を無効にするには、以下の手順に従います。

1. 管理者アカウントまたは管理者権限があるアカウントを使用して、レポートを表示するために使用する Windows Server 2008 コンピュータにログオンします。
2. デスクトップ上で [コンピュータ] を右クリックし、[管理] をクリックして [サーバー マネージャー] ウィンドウを開きます。

3. [サーバー マネージャー] ウィンドウで、[サーバー マネージャー (サーバ名)] をクリックします。

[サーバーの概要] セクションで、以下のとおり [セキュリティ情報] を開いて [IE ESC の構成] をクリックします。



セキュリティ情報	
Windows ファイアウォール:	パブリック 無効
Windows Update:	構成されていません
更新プログラムの最終確認日時:	なし
更新プログラムの最終インストール日時:	なし
IE セキュリティ強化の構成 (ESC):	管理者に対して有効 ユーザーに対して有効

- Windows ファイアウォールの表示
- 更新プログラムの構成
- 新しい役割の確認
- セキュリティの構成ウィザードを実行
- IE ESC の構成

[Internet Explorer セキュリティ強化の構成] ダイアログ ボックスが表示されます。

4. [Internet Explorer セキュリティ強化の構成] ダイアログ ボックスで、以下を設定します。

- 管理者 -- オフ
- ユーザー -- オフ

[OK] をクリックします。

[Internet Explorer セキュリティ強化の構成] ダイアログ ボックスが閉じ、Internet Explorer セキュリティ強化の構成が無効になります。

**Windows Server 2003 システム上で Internet Explorer セキュリティ強化の構成を無効にするには、以下の手順に従います。**

1. 管理者アカウントまたは管理者権限があるアカウントを使用して、レポートを表示するために使用する Windows Server 2003 コンピュータにログオンします。
2. Windows コントロールパネルから [プログラムの追加と削除] を開きます。
3. [プログラムの追加と削除] ダイアログ ボックスで、[Windows コンポーネントの追加と削除] オプションをクリックし、[Windows コンポーネント ウィザード] にアクセスします。

[Internet Explorer セキュリティ強化の構成] の横のチェック マークをクリアします。

[次へ] をクリックします。

引き続き画面の指示に従って手順を完了し、[完了] をクリックします。

Internet Explorer セキュリティ強化の構成が無効になります。

## ページのロード問題のトラブルシューティング方法

### Windows プラットフォームで有効

#### 症状:

CA ARCserve Central Applications、CA ARCserve D2D ノード、モニタ サーバにログインすると、以下のエラーメッセージがブラウザ ウィンドウに表示されます。

#### メッセージ 1

この web ページのエラーにより、正しく機能しない場合があります

#### メッセージ 2

!

#### 解決方法:

Web ページが正しくロードされない場合はいくつかの原因が考えられます。以下の表は、よく見られる原因および対応する対処法について説明したものです。

原因	対処法
基になる HTML ソース コードに問題がある。	Web ページを更新して再度試行します。
ネットワークでアクティブ スクリプト、ActiveX、または Java プログラムがブロックされている。	ブラウザでアクティブ スクリプト、ActiveX、または Java プログラムの使用を許可します。
アンチウイルス アプリケーションが一時インターネット ファイルおよびダウンロードされたプログラムをスキャンするよう設定されている。	アンチウイルス アプリケーションをフィルタし、CA ARCserve Central Applications Web ページと関連付けられたインターネット関連ファイルが許可されるようにします。
コンピュータにインストールされた、スクリプティング エンジンが破損しているかまたは古い。	スクリプティング エンジンを更新します。
コンピュータにインストールされたビデオカード ドライバが破損しているかまたは古い。	ビデオカード ドライバを更新します。

原因	対処法
コンピュータにインストールされた、DirectX コンポーネントが破損しているかまたは古い。	DirectX コンポーネントを更新します。

---

## CA ARCserve Central Applications にアクセスすると、文字化けがブラウザ ウィンドウ内に表示される

すべての Windows オペレーティング システムで有効。すべてのブラウザに該当します。

### 症状:

CA ARCserve Central Applications にログインすると、文字化けした文字がブラウザ ウィンドウのコンテンツ領域に表示されます。

### 解決方法:

この問題が発生するのは、HTTPS 通信を使用して CA ARCserve Central Applications をインストールし、次に HTTP 通信を使用して CA ARCserve Central Applications にアクセスしようとした場合です。基盤となる CA ARCserve Central Applications Web サービス コンポーネントでは、HTTP URL から HTTPS URL に変換する機能をサポートしません。そのため、文字化けした文字がブラウザ ウィンドウに表示されます。例:



この問題を解決するには、HTTPS を使用して CA ARCserve Central Applications をインストールまたは設定した場合は、HTTPS を使用してアプリケーションにアクセスします。

## アプリケーションへのログイン時に証明書エラーが表示される

### Windows プラットフォームで有効

#### 症状:

アプリケーションにログインすると、以下の内容のメッセージがブラウザウィンドウに表示されます。

- Internet Explorer

この web サイトのセキュリティ証明書には問題があります

- Firefox

この接続は信頼されていません

- Chrome

このサイトのセキュリティ証明書は信頼されていません

Web サイトへ続行するオプションを指定した場合、アプリケーションに正常にログインできます。ただし、アプリケーションにログインするたびにこの動作が発生します。

#### 解決方法:

この動作は、通信プロトコルとして HTTPS を使用するよう指定されている場合に発生します。この問題を一時的に解決するには、ブラウザウィンドウで Web サイトへ続行するためのリンクをクリックします。ただし、次回アプリケーションにログインした場合、再度このメッセージが表示されます。

HTTPS 通信プロトコルは、HTTP 通信プロトコルより高いレベルのセキュリティを提供します。HTTPS 通信プロトコルを使用して通信を続ける必要がある場合は、VeriSign からセキュリティ証明書を購入し、アプリケーションサーバに証明書をインストールできます。可能であれば、アプリケーションによって使用される通信プロトコルを HTTP に変更することもできます。通信プロトコルを HTTP に変更するには、以下の手順に従います。

1. アプリケーションがインストールされたサーバにログインします。
2. 以下のディレクトリを参照します。

`C:\Program Files\CA\ARCserve Central Applications\BIN`

3. 以下のバッチ ファイルを実行します。

`ChangeToHttp.bat`

4. バッチ ファイルが実行されたら、Windows サーバ マネージャを開きます。

以下のサービスを再起動します。

CA ARCserve Central Applications サービス

## ノード名を変更した後にノードがレポートに表示されない

### Windows プラットフォームで有効

#### 症状:

ノードが [ノード] 画面に追加された後、ホスト名が変更されました。ノードが [ノード] 画面に表示されなくなりました。

#### 解決方法:

これは予期された動作です。CA ARCserve Central Reporting では、CA ARCserve Central Protection Manager のノード画面で追加されたノード名を保持します。ノード名を変更した場合、CA ARCserve Central Reporting ではノードに関するレポートを生成するためのノードを検出できません。

この問題を解決するには、以下の手順に従います。

1. ノードの名前を変更します。
2. CA ARCserve Central Protection Manager サーバで [ノード] 画面を開き、名前が変更されたノードを削除します。
3. 新しい名前を使用してノードを追加します。

注: [ノード] 画面でのノードの追加および削除の詳細については、「CA ARCserve Central Protection Manager ユーザガイド」を参照してください。

## Microsoft Excel に CSV 形式でデータをエクスポートすると不明瞭なコンテンツが表示される

### Windows プラットフォームで有効

#### 症状:

Microsoft Excel に CSV 形式で保存したレポートを開くと、不明瞭なコンテンツが表示されます。

#### 解決方法:

この動作は、ファイルにマルチバイト文字が含まれている場合、特定の言語の Microsoft Excel で発生することがわかっています。これを解決するには、Microsoft Excel によって提供されるテキストインポートウィザード機能を使用します。

## CA ARCserve Central Protection Manager に正常に接続した後に環境設定エラー メッセージが表示される

### Windows プラットフォームで有効

#### 症状:

CA ARCserve Central Reporting 環境設定画面で有効な CA ARCserve Central Protection Manager 情報を指定した後、以下の内容のエラー メッセージが表示されます。

CA ARCserve Central Protection Manager には正常に接続しましたが、CA ARCserve Central Protection Manager データベースには接続できませんでした。必要な情報を得るには「CA ARCserve Central Reporting ユーザ ガイド」を参照してください。

#### 解決方法:

この問題を解決するには、以下の手順に従います。

1. CA ARCserve Central Reporting をセットアップした Windows ユーザを、CA ARCserve Central Protection Manager が接続している SQL Server にマップします。
2. CA ARCserve Central Protection Manager アプリケーションをデータベースに接続するように設定し、[SQL Server および Windows 認証モード] が選択されていることを確認します。

## Internet Explorer 8、9、Chrome で追加した新しいタブのリンクが正常に起動しない

### Windows で有効

#### 症状:

新しいタブのリンクをナビゲーションバーに追加し、HTTPS URL を指定した場合、新しいタブをクリックすると以下のエラー メッセージが表示されます。

- Internet Explorer 8 および 9

コンテンツは、有効なセキュリティ証明書により署名されていないため、ブロックされました。

- Chrome

このウェブサイトはご利用いただけません。

### 解決方法:

Internet Explorer でこの問題を修正するには、以下の手順に従います。

#### ■ Internet Explorer 8

メッセージバーをクリックし、ブロックされたコンテンツの表示を選択します。

#### ■ Internet Explorer 9

ページ下部のメッセージバーからコンテンツの表示ボタンをクリックします。ページが更新され、追加されたタブリンクが正常に開きます。

Chrome でこの問題を修正するには、以下の手順に従います。

#### 手順 1 - 証明書のエクスポート

##### 1. Chrome で新しいタブを開き、HTTPS URL を入力します。

サイトのセキュリティ証明書が信頼されたものでないことを示す警告メッセージが表示されます。

##### 2. アドレスバーから、'X' の付いたロックをクリックします。

ポップアップ ウィンドウが開き、証明書情報のリンクが表示されます。

##### 3. 証明書情報リンクをクリックします。

[証明書] ダイアログ ボックスが表示されます。

##### 4. [証明書] タブをクリックし、[ファイルにコピー] をクリックして証明書をローカル コンピュータに保存します。

証明書のエクスポート ウィザード ダイアログ ボックスが表示されます。

5. [次へ] をクリックし、ファイルをエクスポートするために使用する形式を選択します。

注: デフォルトでは DER encoded binary X.509 (.CER) が選択されています。

6. [次へ] をクリックし、証明書を保存する場所を選択します。
7. [次へ] をクリックして証明書のエクスポート ウィザードを完了し、[完了] をクリックします。

証明書が正常にエクスポートされます。

## 手順 2 - 証明書のインポート

1. Chrome で [ツール] - [オプション] を開きます。  
[オプション] 画面が開きます。
2. [高度な設定] オプションを選択し、[証明書の管理] をクリックします。  
[証明書] ダイアログボックスが開きます。
3. [インポート] をクリックします。  
証明書のインポート ウィザードが開きます。
4. [次へ] をクリックし、ローカル コンピュータに保存した証明書を参照します。

5. [次へ] をクリックし、証明書ストアを開きます。  
[証明書ストア] ダイアログ ボックスが表示されます。
6. [参照] をクリックし、[証明書ストアの選択] ダイアログ ボックスを開きます。  
[証明書ストアの選択] ダイアログ ボックスが表示されます。
7. ファイルリストから [信頼されたルート証明機関] を選択して [OK] をクリックします。  
[証明書ストア] ダイアログ ボックスが表示されます。
8. [次へ] をクリックして証明書のインポート ウィザードを完了し、[完了] をクリックします。  
セキュリティの警告ダイアログ ボックスが表示され、証明書をインストールすることが通知されます。  
[はい] をクリックして条件に同意します。

証明書が正常にインポートされます。

## Internet Explorer 8 および 9 で、新しいタブの追加リンク、RSS フィード、およびソーシャル ネットワーキング フィードバックが正常に起動しない

### Windows で有効

#### 症状:

HTTPS CA ARCserve Central Applications URL の場合 :

新しいタブのリンクをナビゲーションバーに追加し、HTTP URL を指定した場合、新しいタブおよび [フィードバック] リンクをクリックすると以下のエラー メッセージが表示されます。

Web ページへのナビゲーションは取り消されました。

また、RSS フィードが表示されません。

注: 新しく追加されたタブのリンクを選択しなくても、[フィードバック] リンクをクリックした場合にもエラー メッセージが表示されます。

#### 解決方法:

この問題を解決するには、以下の手順に従います。

##### ■ Internet Explorer 8

ログインし、ポップアップセキュリティ警告メッセージの「セキュリティで保護された Web ページ コンテンツのみ表示しますか」に対して [いいえ] をクリックします。これにより、保護されていないコンテンツが Web ページに表示できるようになります。

##### ■ Internet Explorer 9

ページ下部に表示されるメッセージバー上で「コンテンツをすべて表示」ボタンをクリックします。ページが更新され、追加されたタブリンクが正常に開きます。

# 第 6 章: ベスト プラクティスの適用

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[インストール処理のオペレーティング システムに対する影響 \(P. 127\)](#)

## インストール処理のオペレーティング システムに対する影響

CA ARCserve Central Applications インストール処理は、Microsoft Installer Package (MSI) というインストール エンジンを使用して、さまざまな Windows オペレーティング システムのコンポーネントを更新します。CA ARCserve Central Applications では、MSI に含まれるコンポーネントによって、CA ARCserve Central Applications のインストール、アップグレード、アンインストールを行うカスタム アクションを実行できます。

以下の表では、カスタム アクションと影響を受けるコンポーネントについて説明します。

**注:** CA ARCserve Central Applications のインストールおよびアンインストールを行う場合、すべての CA ARCserve Central Applications MSI パッケージは、この表にリストされたコンポーネントを呼び出します。

コンポーネント	説明
CallAllowInstall	インストール処理で現在の CA ARCserve Central Applications インストールに関する状態を確認できます。
CallPreInstall	インストール処理で MSI プロパティの読み取りと書き込みが可能になります。たとえば、MSI から CA ARCserve Central Applications インストールパスを読み取ります。
CallPostInstall	インストール処理でインストールに関するさまざまなタスクを実行できます。たとえば、CA ARCserve Central Applications を Windows レジストリに登録します。
CallAllowUninstall	アンインストール処理で現在の CA ARCserve Central Applications インストールに関する状態を確認できます。

コンポーネント	説明
CallPreUninstall	アンインストール処理でアンインストールに関するさまざまなタスクを実行できます。たとえば、Windows レジストリから CA ARCserve Central Applications の登録を削除します。
CallPostUninstall	アンインストール処理で、インストール済みファイルがアンインストールされた後、さまざまなタスクを実行できます。たとえば、残ったファイルを削除することができます。
ShowMsiLog	[SetupCompleteSuccess]、[SetupCompleteError]、または [SetupInterrupted] ダイアログボックスの [Windows Installer のログを表示] チェックボックスがオンの場合に [完了] をクリックすると、Windows Installer ログ ファイルをメモ帳で表示することができます。（これは Windows Installer 4.0 でのみ機能します。）
ISPrint	ScrollableText コントロールの内容をダイアログボックス上に出力します。 これは、Windows Installer .dll カスタムアクションです。.dll ファイルの名前は SetAllUsers.dll で、エントリ ポイントは PrintScrollableText です。
CheckForProductUpdates	FLEXnet Connect を使用して製品アップデートを確認します。 このカスタムアクションは、Agent.exe という名前の実行可能ファイルを起動し、以下に移動します。 /au[ProductCode] /EndOfInstall
CheckForProductUpdatesOnReboot	再起動の際に FLEXnet Connect を使用して製品アップデートを確認します。 このカスタムアクションは、Agent.exe という名前の実行可能ファイルを起動し、以下に移動します。 /au[ProductCode] /EndOfInstall /Reboot

- **更新されるディレクトリ** -- インストール処理では、デフォルトで以下のディレクトリに、CA ARCserve Central Applications ファイルのインストールと更新が行われます。

C:\Program Files\CA\ARCserve Central Applications

CA ARCserve Central Applications は、デフォルトのインストールディレクトリ、または別のディレクトリにインストールすることができます。インストール処理では、さまざまなシステム ファイルが以下のディレクトリにコピーされます。

C:\WINDOWS\SYSTEM32

- **更新される Windows レジストリ キー** -- インストール処理は以下の Windows レジストリ キーを更新します。

デフォルトのレジストリ キー

HKLM\SOFTWARE\CA\CA ARCserve Central Applications

インストール処理では、システムの現在の設定に基づき、新しいレジストリ キーが作成され、その他のさまざまなレジストリ キーが変更されます。

- **インストールされるアプリケーション** -- インストール処理では、以下のアプリケーションがコンピュータにインストールされます。
  - CA ライセンス
  - Microsoft Visual C++ 2005 SP1 Redistributable
  - Microsoft Windows Installer 3.1 Redistributable (v2) パッケージ
  - Java Runtime Environment (JRE) 1.6.0\_16
  - Tomcat 6.0.32

## 無効なファイル バージョン情報が含まれるバイナリファイル

CA ARCserve Central Applications は、サードパーティ、他の CA 製品、CA ARCserve Central Applications によって開発され、正しくないバージョン情報を含むバイナリ ファイルをインストールします。以下の表は、これらのバイナリ ファイルについての説明です。

バイナリ名	ソース
UpdateData.exe	CA ライセンス
zlib1.dll	Zlib 圧縮ライブラリ

## 埋め込みマニフェストを含まないバイナリファイル

CA ARCserve Central Applications は、サードパーティ、他の CA Technologies 製品、CA ARCserve Central Applications によって開発され、埋め込みマニフェストおよびテキスト マニフェストを含まないバイナリ ファイルをインストールします。以下の表は、これらのバイナリ ファイルについての説明です。

バイナリ名	ソース
BaseLicInst.exe	CA ライセンス
UpdateData.exe	CA ライセンス
vcredist_x64.exe	Microsoft
vcredist_x86.exe	Microsoft
WindowsInstaller-KB893803-v2-x86.exe	Microsoft
tomcat6.exe	Tomcat

## マニフェストで管理者に必要な権限を持つバイナリファイル

CA ARCserve Central Applications はサードパーティ、他の CA Technologies 製品、CA ARCserve Central Applications によって開発され、管理者レベルまたは利用可能な最上位レベルの権限を持つバイナリ ファイルをインストールします。さまざまな CA ARCserve Central Applications サービス、コンポーネントおよびアプリケーションを実行するには、管理者アカウントまたは最上位の権限を持つアカウントを使用してログインする必要があります。これらのサービス、コンポーネントおよびアプリケーションに関係しているバイナリは CA ARCserve Central Applications 固有の機能を含み、基本ユーザアカウントには利用が許可されていません。このため、Windows はパスワードの指定または管理者権限を持つアカウントの使用を促し、権限を確認した後で作業を完了します。

- **管理者権限** - 管理者プロファイルまたは管理者権限を持つアカウントには、すべての Windows リソースおよびシステム リソースに対する読み取り権限、書き込み権限、および実行権限が付与されています。管理者権限を持っていない場合、続行するには管理者ユーザのユーザ名/パスワードを入力するように促されます。
- **最上位の権限** - 最上位の権限を持つアカウントは、管理者としての実行権限を持つ基本ユーザアカウントとパワーユーザアカウントです。

以下の表は、これらのバイナリ ファイルについての説明です。

バイナリ名	ソース
APMSetupUtility.exe	CA ARCserve Central Applications
ArcAppUpdateManager.exe	CA ARCserve Central Applications
CA ARCserve Central ApplicationsAutoUpdateUninstallUtility.exe	CA ARCserve Central Applications
CA ARCserve Central ApplicationsPMConfigSettings.exe	CA ARCserve Central Applications
CCIConfigSettings.exe	CA ARCserve Central Applications
CfgUpdateUtil.exe	CA ARCserve Central Applications
CfgUpdateUtil.exe	CA ARCserve Central Applications
D2DAutoUpdateUninstallUtility.exe	CA ARCserve Central Applications
D2DPMConfigSettings.exe	CA ARCserve Central Applications
D2DUpdateManager.exe	CA ARCserve Central Applications

バイナリ名	ソース
DBConfig.exe	CA ARCserve Central Applications
FWConfig.exe	CA ARCserve Central Applications
RemoteDeploy.exe	CA ARCserve Central Applications
RestartHost.exe	CA ARCserve Central Applications
SetupComm.exe	CA ARCserve Central Applications
SetupFW.exe	CA ARCserve Central Applications
SetupWrapper.exe	CA ARCserve Central Applications
Uninstall.exe	CA ARCserve Central Applications
UpdateInstallCommander.exe	CA ARCserve Central Applications
UpgradeDataSyncupUtility.exe	CA ARCserve Central Applications
jbroker.exe	Java Runtime Environment
jucheck.exe	Java Runtime Environment

# 索引

---

## C

- CA ARCserve Central Applications にアクセスすると、文字化けがブラウザ ウィンドウ内に表示される - 118
- CA ARCserve Central Applications マニュアル 選択メニュー - 12
- CA ARCserve Central Protection Manager サーバの設定 - 25
- CA ARCserve Central Protection Manager に正常に接続した後に環境設定エラーメッセージが表示される - 122
- CA ARCserve Central Reporting のアンインストール - 18
- CA ARCserve Central Reporting のインストール - 13, 14
- CA ARCserve Central Reporting のサイレントアンインストール - 22
- CA ARCserve Central Reporting のサイレントインストール - 19
- CA ARCserve Central Reporting のトラブルシューティング - 113
- CA ARCserve Central Reporting の概要 - 9
- CA ARCserve Central Reporting の仕組み - 11
- CA ARCserve Central Reporting の使い方 - 35
- CA ARCserve Central Reporting の種類 - 39
- CA ARCserve Central Reporting の紹介 - 25
- CA ARCserve Central Reporting ログの表示 - 100
- CA Technologies 製品リファレンス - 3
- CA への連絡先 - 3
- CPU 使用率ドリルダウン レポート - 60
- CPU 使用率レポート - 57
- CPU 使用率レポートの利点 - 57
- CPU 使用率レポート ビュー - 58
- CSV ファイルとしてのレポートの保存 - 109

## D

- Dashboard 画面について - 36

## I

- Internet Explorer 8、9、Chrome で追加した新しいタブのリンクが正常に起動しない - 122
- Internet Explorer 8 および 9 で、新しいタブの追加リンク、RSS フィード、およびソーシャル ネットワーキング フィードバックが正常に起動しない - 126

## M

- Microsoft Excel に CSV 形式でデータをエクスポートすると不明瞭なコンテンツが表示される - 121

## あ

- アプリケーション データ トレンド ドリルダウン - 47
- アプリケーション データ トレンド レポート - 44
- アプリケーション データ トレンド レポートの利点 - 44
- アプリケーション データ トレンド レポート ビュー - 45
- アプリケーションへのログイン時に証明書エラーが表示される - 119
- アラート レポート - 39
- アラート レポート ビュー - 40
- インストール処理のオペレーティングシステムに対する影響 - 127
- インストール タスクの前提条件 - 13
- インストールに関する考慮事項 - 14
- 埋め込みマニフェストを含まないバイナリファイル - 130

---

## か

概要 - 9

仮想化保護ステータス ドリルダウン レポート - 90

仮想化保護ステータス レポート - 86

仮想化保護ステータス レポートの利点 - 87

仮想化保護ステータス レポート ビュー - 88

管理者アカウントの変更 - 33

更新スケジュールの設定 - 29

## さ

サーバの通信プロトコルの変更 - 110

ソーシャル ネットワーキングの環境設定 - 32

## た

データ トレンド レポート - 44

電子メール設定の環境設定 - 27

電子メールによる個別レポートの送信 - 105

電子メールによるレポートのスケジュール - 103

## な

ナビゲーションバーへのリンクの追加 - 102

ネットワーク使用率ドリルダウン レポート - 69

ネットワーク使用率レポート - 65

ネットワーク使用率レポートの利点 - 66

ネットワーク使用率レポート ビュー - 67

ノードアーカイブ ステータス ドリルダウン レポート - 75

ノードアーカイブ ステータス レポート - 70

ノードアーカイブ ステータス レポートの利点 - 71

ノードアーカイブ ステータス レポート ビュー - 72

ノードバックアップ ステータス ドリルダウン レポート - 83

ノードバックアップ ステータス レポート - 78

ノードバックアップ ステータス レポートの利点 - 78

ノードバックアップ ステータス レポート ビュー - 80

ノード名を変更した後にノードがレポートに表示されない - 121

## は

バックアップ サイズ トレンド ドリルダウン レポート - 52

バックアップ サイズ トレンド レポート - 48

バックアップ サイズ トレンド レポートの利点 - 49

バックアップ サイズ トレンド レポート ビュー - 50

バックアップ レポート - 70

複数のレポートを一度に表示 - 106

プロキシ設定の環境設定 - 30

ページのロード問題のトラブルシューティング方法 - 117

ベスト プラクティスの適用 - 127

ボリューム トレンド レポート - 53

ボリューム トレンド レポートの利点 - 54

ボリューム トレンド レポート ビュー - 54

## ま

マニフェストで管理者に必要な権限を持つバイナリ ファイル - 131

マニュアルの変更点 - 5

無効なファイルバージョン情報が含まれるバイナリ ファイル - 129

メディアのデータ分布ドリルダウン レポート - 98

メディアのデータ分布レポート - 95

メディアのデータ分布レポートの利点 - 95

メディアのデータ分布レポート ビュー - 96

メモリ使用率ドリルダウン レポート - 64

メモリ使用率レポート - 61

メモリ使用率レポートの利点 - 61

メモリ使用率レポート ビュー - 62

---

## ら

リソース使用率レポート - 56

レポートが Internet Explorer で表示されない  
- 114

レポート機能 - 10

レポート タスク - 103